Mar. 1900
no. 507

明治三十三年三月十日

女學雜誌

第五百七號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第五百七號目次

◎社説
人力に疑ふの時際
官公立學校に對する觀念一變の徴兆

◎米國だより
歐米文界通信(其二) …… 蘆下居
米國通信(第六回) …… 松井國村
非戰平和論
ウイルコックス女史の新詩

◎講義
新飾論一斑(中) …… 山形東根
新飾流行の時期並に原因(現今の狀態)男子の新飾と女子の新飾

◎家庭
花園小草(十三則) …… 紫琴女
寄向島百花園想 …… 若葉の子

◎大磯だより
病家見舞を讀みて …… 湘村女史

◎隨感
子を失へる友を慰さむ
かくの大丈夫の忍ぶ戀 …… 知己少なきを奇しむな

◎雜錄
偶像を排め …… 若葉の子有美
赤府先生逸話(二則)
四行女の生血を吸ふの說、同答
女學雜誌を評す(山形新聞)
女子高等師範學校當年入學試驗問題

◎寄書
濟濟地方の苦同胞 …… 田中正造
樂界散策錄(下) …… 嚴木露谷

◎通信
女社會學答信(出羽靜內)
明治女學校通信

◎時事
逍士新聞慣死、小說界寂寥、新聞紙の活氣、
十字架に於ける日本婦人、宗教研究の流行、人像觀

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を郭にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する論說の卓見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分、み又は廿五日發行の分のみを指定して所望せらるゝものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	
壹冊定價	拾錢
半年分定價	壹圓拾錢
一年分定價	貳圓
(内國無郵稅)	

◎代金は總て前金にて御注文ありたし、年來引續き購讀の諸君にて前金切れ候共斷然之を引續き發送するも可有之事
◎但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事是れ如に不本意乍ら計算はしき不得止候ても恐間か
◎知れ候て御承知被下度候

廣告料	
一行(廿三字詰)一回	前金拾錢
同 三回以上	一割引
同 六回以上	二割引

送金 送金は東京巣鴨郵便支局に宛て小爲替にせられ度し郵便切手にて送らるゝ人は總べて一割增にて計算せられたし

明治三十三年三月十日印刷
明治三十三年三月十日發行
發行兼編輯人 巖本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所 女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場
(電話番町十九番)

紫の舍公告

余さきに 池袋詩風大人に就きて敷島の道に入りそめしより、おぼつかなくも、たどり來りしと茲に數年、やゝ諸家の說を聞きつゝも、殊に香川翁の高見に推服する所あり。爾來歩一歩、ますく前途の杳茫として遼遠なるに驚きぬ。故にもとより敢て自ら得たる所ありしと云ふにあらず。然りと雖も、晩近人心のいよく浮華に流れて、誠實すくなく、詩人の虛名をてらいて放逸なるに驚ろかずんばあらず。是れ即ち有志者と同じに、詩美神の名に於て、慨すべきの至りにあらずや。故に茲に同好の士女諸子と共に一社を結び、相共に研鑽して、斯道の機微を明らめ、あはせて詩美神の祭壇に跪きて、心より誠實の牲をさゝげんとを期す。是を以て、先進者には指導せられ、後進者とは共に相提攜して、道に進まんとす。是れ本會の要旨なり。豈別に他意ありきせんや。

寄稿者は、左の條件を知了せられたし、

一 元と余暇を偸みて從事するものなるが故に返稿は事情の許す限りに於て速かなるべきと
二 佳作と認めしものは之を女學雜誌誌上に掲載して同好の人に割愛すべきと
三 返稿の爲に、相當の郵券を送附せられ度と
但し前述せしが如き旨趣なる故に敢て期定の報酬を要せず、友誼の爲とては、賜るも可なり。賜わらざるも亦可なり。

東京府下巣鴨村庚申塚
紫の舍あるじ 湯谷紫苑

おもふさら袖ふりはへてむさしのゝむかしのゆかりいてて見ましや

女學雜誌

第五百七號

明治三十三年
三月十日發兌

社説

人互ひに疑ふの時弊

●人互ひに疑ふの時弊これ方今の通弊なり。

何をもつて此の通弊を來せしぞ。人心萎靡、氣力衰耗、慨然として公事に鞠躬するの風に滅じ、各人皆な自營自利に忙わしきに淵源す。

左らば、人心の萎靡、氣力の衰耗は亦た何によつて來れるやと問わん歟。其最大元因は、財政困難にあり。而して此の財政困難はまた何によつて來れるやと問ふものあらん歟。吾人は吾が讀者に對して再たび此の問題を論ぜざるべし。

夫れ、身を危うくして公事に鞠躬するの氣慨は、明治維新の際に於て大いに煥發したりき。爾來、因襲して惰性尚ほ動き、久しく其の習氣を支持したるに、元勳元動の血源次第に乾き、強努の末勢漸やく消えて、人心初めて倦まんとす。此時に方つて、尚且つ幾多の失政あり、就中、財政を誤まりて、邦家一齊に究乏し、各人目前の必迫に追われて英氣彌よ沮喪す。空想に似たりける想理すら最早亡し、盛んに施こされたる經綸も全たく絕えたり。人、老すれば一身を念ふ、人心の老するも亦同じ。國人相率ひて只だ自營自利に忙がわしき、寧ろ當然の數にあらずや。

現代の趨勢如此く然るが故に、人々相見て其の高義を信せず、只だ概むね其の自利自營を過察す。今の輿論、今の新聞紙、今の人物批評の如く、無雜作に他の節義を疑がふこと未だ曾て有らず。而して、之を疑ふものも、甚だしく人の德を傷つけたりとせず、疑がわれたるものも義憤嘔吐するの廉潔尠なし。手數料、コムミッション、賄賂等の文字は、今時一代の普通名詞となれり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

鳴呼、人互ひに疑がふとの甚だしきや、是れ人世末路の際なり。世に剛士あるとを信ぜず、世に烈婦あるとを信ぜず、只だ但だ金錢と自營とによりて、人の節義を自由自儘になし得べしと信ずる、即はち一代の末造、綱紀紊亂の機なり。

吾人今ま當代を見て如此く觀ずと云ふと雖ども、之によりて一派人士の如く必らず絶望するものにあらず。吾人は現代の墮落して如此くなれる由緒を知れり。左れば亦た其の一轉して光明に向ふべき由緒をも解し得たり。人世もと危機多し、一治一亂、一盛一衰は其の常なり。誤まつて先覺の指導に聞かず、世は今ま苦がき經驗を爲しつゝありと雖ども、豈に是れ不治の難病ならんや。世自づから名醫あらん。

夫れ、人互ひに疑がふとの多き時や、人の我を疑ふとの無稽作なるは固よりなり。然りと雖ども、天下皆な我を疑ふと云ふと雖ども、之によりて我亦自から疑がわざる可らざる乎、天下皆な善疑せば、善疑の徒に信ぜられんとする希望もなく、人や浩々落々として反つて自由なるべし。天下皆な自疑の徒多くんば、吾ひとり固く信じて以て一新世界開拓の基礎となる豈に痛快事ならずや。

凡そ人の大事を爲す、固より大勢を料合せずんばある可らず。然れども、大勢を料合するの根柢は、先づ我が獨自一己を堅信するにあり。我先づ我が本心の上に堅立せず、助けを吾以外に求むる時は、氣既に餒え精既に涸る、大事の成らざる早く明白なり。

鳴呼、邦家の末路は、維新の機なり。大丈夫、猶然として期せざる可らず。世局日に難み、人情日に困すれば、天の大任を命ずる彌よ近し。もし能く當代に慷慨するとを知るものあらば、單に慷慨に日を消すとを爲で、別に大いに備ふる所ろあるべきなり。今の時は、徒らに他に向つて責めべき時にあらず、自から責め、自から任じて、以て一大革命を吾が足下よりして爆發せしめべき時なり。

故に曰く、人互ひに疑ふの時際は、當代の流行のみ。此の流行をして自づから流れ行かしめよ。人互ひに疑ふと多きによりて、自から信ずるとを輕くする勿れ。万疑暗黑の世や、たゞ足下自信の一燈より光明を促がし來る。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

官公立學校に對する觀念一變の機兆

◎官員が善きか、民間の事業が善きか、官立が善きか、私立が善きかと言へば、コレト云つて一定したとはない、たゞ時の勢に由るのである。

◎官員が飛ぶ鳥を落すやうな場合もあり、民間の會社員が大に流行する場合もある。之は、權力と、報酬と、名譽と、便利との增減によつて生ずる變化で、其の變化は、時勢によりて色々に變るものであるから、無論一概には言へぬ。

◎シカシ、近頃では、官員の勢力と云ふものは殆んど無い。會社員の勢ほいの增した事は、近年實に驚ろくべき程である明治二十二三年より前の景况を知つて居るものから見れば、丸で隔世の思ひがするのである。

◎官公立學校と、私立學校との關係も亦た之に類するもので、明治十二三年の頃までは、私立學校が全盛であつたが、其後十年間即ち明治二十二三年頃までに、官公立と私立と互角の勢になり、夫から十年即はち明治三十二三年迄は、官公立學校の全盛であつたが、今や既に機一轉の場合になつた。

◎官公立學校の全盛となるは即はち教育普及するので、教育普及すれば、如何なる種類の家の子弟も皆な就學するとゝなるからして、富家の子、又は教育を極鄭寧にしよふとする家の子は之と同じ學校に入る事を好まぬやうになるものである。今日が即はち其機端の初めである。

◎一躰、官公立學校は、國家の教育機關であるから、成べく多數の子に、成べくマンベンなく施こすのが主意で、其他、特別、逸品の仕上げ方は、自から他の特別機關に待つべきである。外國などでも、大いに教育の進んだ國では、ミナ追々にしてソンナ工合になるのである。

◎先づ小學校などで申して見ても、今の就學年齡の子を悉とく入れんとすれば、迚も今の小學校では足りぬのである。左すれば、富家、教育家、善家庭の親などは、自分の子は別に特別なる小學校を私立して、ソコデ鄭寧に敎へ、今の小學校は、成べく無月謝位ひにして、一般の子を多く廣く就學せしむるやうにする筈である。然るに、今でもまだ、子供は是非官公立の小學校に送らねばならぬものゝやうにのみ思つて、偶たま、左様にしないものがあれば奇しむものもある。文部

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

省でさへ、之を咎めんとする。愚なことである。

◎試ろみに見らるゝが宜しい、大勢の趣むく所は、如何んともする事は出來ぬ。官公立小學校に對する觀念は之よりして追々に變はります。官公立小學校は、中以下の家の子、もしくは貧民の子などが多く入學する所となつて、其他、自由がきゝ、力があり、便利がある家の子は、少數の子を預かつて鄭寧に教へる私立學校か、もしくは家庭内につくつた小學教育所に於て教へるやうになり升。必ず御覽になるが宜しい。

◎コノ事は先づ小學校に於て現はれ、次に、中學校、高等女學校に於て現はれ來るので、今后十年間に、形勢全たく一變し、官公立學校は甚はだ廉なる月謝で、多數の子が入學し、私立學校は、甚はだ高價なる月謝で、少數の子が入學するやうになる。而て大いに發達し、十分に教育の行はるゝ者は即ち私立學校であると云ふ事實が彌よ明白になつて來升。

◎凡そ、事業の經營は、大体を誤まつては、何の役にも立ぬものとなります。之より以后、新たに學校を起す人々は、この所に注意ありたき事で、いつも〳〵人のあとに尼いて、只だ流行の尻馬に乘るは、不見識極まる事であり升。

亞米利加だより

歐米文界通信（其二）

鉦　下　庵（紐育府一月出）

昨年英語文壇に於て失なひたる勇將中、小生が尤とも惜しむべしとなすものは、米國無神論者として知られたるロバート、インガソールに御座候。彼や基督教國に生れて而も宗教の迷信多きを忌み、卓然として宗教以外に身を置き、あらゆる罵詈をことともせずして、確く自己の信ずる處をとりて動かざりしは、少なくとも僞善と迷信とにて充ちたる今日の世界を教ゆるに足るべく候。彼はヴォルテールの如く常に自由を握りて動かざりき。その人情主義をもて己が宗教となしたる、身コロネルにして而も世界のあらゆる文學、哲學、宗教、政治の諸方面に通じ、常に自由思想のために戰かふを忘れざる、彼が豐富なる詩才は、彼をして終に英語文壇の勇將たらしめき。小生は白狀す、予が彼を愛するを禁ぜざる所以のものは、彼が無神論者なりし故にあらずして、彼が溢るゝ計り

の同情をもて、彼の如くうるはしく、且つ自由にして大膽なる文を有せしとに御座候。如何なる方面にも彼のひろき同情の溢れざるはなく、常に温たかに、常に血ある文章は、彼に於てはじめて見られ候。彼がグラッドストン氏と基督教に關して論爭せしは、何人も能く記する所にして、その沙翁を論じ、ルナンを評し、トルストヰをあげつらひたる文章を讀み來れば、少なくとも彼が英語文壇の勇將なるを證すべく候。彼嘗てウォルテールを評して曰く、

He was not the greatest of poets, or of dramatists, but he was the greatest man of his time, the greatest friend of freedom and the idealist foe of superstition.

と。蓋しこれまた彼自らの自らを評せし言なるべく候。何んとなれば彼も等しくウォルテールの如き自由と大膽と勇氣と詩才と同情とを有し居たれば也。

グラント、アルレンの死もまた惜しむべく候。彼は小說家にして論文家、科學者にして詩人たりし人。その多能多技なる當今英國文壇に比なかるべく候。どちらかと申せば、彼の小說はまづく、詩に秀でたる處なし。要するに、彼は寧ろ科學者としてこそ多少學界に貢献せしならめ。然しながら、小生は、日本の文界に、未だ少なくともかゝる人物を見ざるを悲しみ候。小說家といへば、何でもつまらぬ學識なきものゝ如く見なさるゝ今日の文界は、少なくともかゝる人物を要し候。

これを詮ずるに、昨年の英米文壇は、到底さびれたりと申すの外これなく候。もしそれ佛のゾーラに到りては、一段の注目を要し候。彼が近作フェコンヂテは實に彼が一轉化を示せるなり、然り彼は今まや露のトルストイと等しく、總てのアートは德敎進捗の具なりと感ずるに至りしなり。紐育ヘラルド記者彼を評して曰へらく、ゾーラは今や其の預言者なるの地位に滿足せずして、直ちに傳道者なるの地位に立んとせるなりと。按ずるに彼がフェコンヂテの中に於て、人物の口をかりて佛國の前途を憂ひ、巴里をそしりて、今や巴里は死の焦點に坐せりと云ふ如き一節を讀めば、彼が淺薄なるリアリスチックとして誤まられたるも容易に解かれ得べく、その痛快なる筆鋒は、頁にゾーラリズムの如何に偉大なるかをあらはし候。

イブセンは近頃ろ新戯曲を出し候へども、傳ふる處によれば

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

とは彼の最后の作なるべしと。イブセン、トルストイと、その年配を同ふすれども、前者は漸やく老い、后者は倘は且つ天下の注意をひき居り候。瞑目して念ひ來れば、十九世紀末世界文學のいとさびしさ、そゞろにおきたらぬ思のみ、感ぜられ申候。

牧師にして文壇に筆を取る人として能く知られたるは、英のドクトル、ワットソン、雅名イアンマクラレン。米のヘンリー、ヴアンダイクに候。前者は余りに宗教的なれども、能く時弊をうがち、筆また健、後者は一種の散文詩人にして、殊に自然を描く點に於て名を博し居り、湖處子君などの朋友たるべく候。近著「Fisherman's Luck」の如きも、僅に英文の上乘として數へられべく、そのスタイルの近世雜誌的ならざるは、却りて氏の特色たる自然を描くに適するところ存じ候。序でながら申上候。ムーデーの死は、宗教界のため、甚はだ悲しまれ候。小生が彼を見たるは、ブルックリンなる有名のプリモス教會即わち四十年前ヘンリー、ワルド、ビーチヤーの牧し居りし教會にて候。思ふに、そのでつぷりと肥りて、カット、ウイヤーにあらねば似合ぬ如き肥た牧師が絶へずめれ來る一種のウイットに公衆の笑ふを禁ぜざらしめたることを。予は當時彼を評して言へり、ムーデーも終に米國的牧師のよき代表者たるを免かれじと。今にして思へば、予の少しく酷なりしよを覺え申候。然しながら、彼は深き學殖あるにあらず、また別に天才の與へられたるにあらずして、かく迄も人の注目を惹き候は、何者かの彼にこもれるを意味し居候。彼は大宗教家と云ふよりも、寧ろ宗教的事業家なりき。其の死せんとするや、言をのこして曰へり、予は常に野心家たりき、然れども財貨を求めんが爲にあらずして、唯だ何者かを成さんと欲してなりきと。然り、彼が心は常に企てにて滿ち居りしよに御坐候。あまり長くなり候まゝ、此の位にて相とめ申すべく候。政治界、教育界、宗教界一般社會の事に關して記すべきは多くこれあり候へども、總て茲には畧し申候。何れ時を得候はゞ、紐育のダークサイドに就て御通信申しあげべく候。

散る花とおもひながらもしかすがに
あらしをいとう昨日けふかな。

米國通信（第六回）

櫻井鷗村（ペンシルベニア州）

非戰平和論（其二）

また予の桑港に在りし際、カリフオルニア義勇隊が、マニラより歸國（凱旋といふべきか？）するを歡迎するとて、市民が丸で狂氣の態なりしを目擊したり。其時ワシントンより來りし一婦人が、如斯き事態は、桑港のみの事弊なり、東部などには、さる馬鹿々々しき狂態あることなしと云ひしが、扨て紐育のデユウエー歡迎熱の度合などは、なかなかに片田舍の桑港なんどの及ぶ處にあらざりしとか。來て見れば、此處も彼處も花の頃、皆人醉ゑりの感なくんばあらず。人殺し商賣の者が、愛國者の名を專有する時代の今日此頃、數年前までは、米國宣教師等が、日本書生または教會信徒にむかひて、米國には、常備軍などあるなく、博愛主義の米國民は、戰爭を好まずなど丶説きたるが、今は、それと異りて、隨分と、他に劣らぬ戰爭好の傾向を示せるに當りて、流石は、大國の事なり。一方には、盛に戰爭の非を鳴して、平和論を主張するもの國內に多く、デユウエー萬歲、新領土問題、グレーター、アメリカ、帝國主義などに沈醉せる衆中に、米國建國の主義、共和の精神は、如斯き邊に存せざる旨を説きて、彼處此處に公會を開きて、警醒の聲を放つもの尠からず。スタンフオルド大學總理ジヨルダン博士は、侃々として非戰論を主張し、帝國主義を難論し、フイリピン島合併を非議す。博士の對フイ島説は、之を日本に讓與すべしとするの意見なりといふ。博士が千八百九十八年、スタンフオルド大學卒業式の演說中に云へることあり、

愛國心とは、國に奉ずるの意志なり、國をして、更に有用のものたらしめんとするの意志なり。人心排撥の如き輕々しき事に非ず。一撥の騷擾は愛國心に非す、西班牙の國旗を蹂躪し、花火を揚げ、獅子（英國）の尾を紛る如きは愛國心の以に非ず。戰事記者の叫聲は愛國心に非ず……

博士ジヨンソン云はずや、愛國心とは、無賴漢の最後の遁場なりと。

眞の愛國心は戰爭心の興起する度につれて減少す。

戰爭は、殺戮なり、殘忍野蠻なる殺戮なり。而して其直接の結果は甚たしき害毒なり。

愛國主義に反對するに三ッの理由あり。第一は、土地領有は獸力の事なり。第二附庸國は奴隷國なり。第三人才を作るとは帝國を建設するよりも大事なり。

英國の政治上に大勢力を有するとは、海軍または陸軍の力によるに非ずして、個人の自由を得んが爲に競爭するとにあり。或はマルボロー、或はチルソン、或はウェリントン、彼等は、英國の代表者に非ず、吾人は無論、ジョンム、ハンブデン。グラッドストンまたはブライトを以て然りとせん。

英國政治の眞の大問題は、內事に在りて、外事に非ず。

現時戰爭の結果が何であれ、運よき二十世紀が、何物を持ち來すにもせよ、米國民の第一の責任は、人は國よりも大なるとを、智識は、榮華よりも大なるとを、又德望は、海外の領土よりも大なるとを忘れざるとなり。

元來、生物學者にして、而して推理の力を有する此學者は、斯の如に堂々、其主義を主張して、群盲滔々の港に眞理を叫破し、所謂、愛國家が、彼を呼んで、國賊なんどと稱するも更に意に介せざるなり。蓋し、米國に於ける非戰論者張本の一人なり。由來クェーカー宗徒は、教旨として、非戰主義を頑守す。此宗徒に就きて、後に述ぶる處あるべし。爰にいへる非戰論者の如きは、いづれも、クェーカー宗徒以外の論客志士を指せるものなり。彼グレイ夫人の如きも、しきりに此主義に熱中して、之に關する諸家の議論に注目し、またボストン市を本部とする、米國の平和會に音信して、此の理を研讃す。さまで學識深きにあらねども、嚴として、一の主義に立てるは、これぞ米國婦人の長處を持するものなるべき。

過ぎたる榮華を夢見る事久しきは、小國民の弊にして、大國民に至りては、然らず。日清戰爭の勝利は、日本國民には、今なほ現在の事實なるかの如くに、あまり屢、繰返され、肥腮の宜しきに過ぎたりと雖も、米國民の如きは、之に異なり。如何に戰爭好になりたりとても、國を學げて軍國となすが如きわるなく、假令ば、デュウェー歡迎の如き事ある時に、一時に大騷ぎをなすと雖も、其節を失はず。よく時と共に推移して、將來の進步を望んで、過去を追ふ事甚なし。由來米國民は、好奇心に富みて、爭ふて、新奇事のあるに逢へば之に趨る。此般の傾向は、英國民の、ステデーチスなるに似ず。近かく戰爭國民の態度を示せるも、また此の傾向の一發作た

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

るに過ぎざるべし。

米國の新立國民たり、また外邦より移住し來るもの、多きを加へ、所謂殖民時代なるものは、今なほ繼續中なりと雖も、其國民の公共心に富めるは、實に嘆美に堪へず。されど、また、國を擧りて、一事に吸收せらるゝ事なく、其分に居りて、業に勵むは、また敬服せずんばあらず。また各々國事の爲に、個人の主義を棄てず、戰時に在りても、なほ非戰論者の爲に地歩を殘すは、これ實に大國の美事なるべし。

ウィルコックス女史の新詩

リテラリー、ヂヂェスト雜誌曾て嘆じて

『米國が海陸に大勝利を博したる今日、奇怪にも米國詩人の玄默して歌はざるは何が故ぞや。』

と云へるに答へて、奇拔の答辯をなせるものを、エラ、ホィラーウィルコックス女史となす。女史は、當時米國の一女詩人として一種の異彩を放ち、ニューヨーク、ジョーナル等に筆を取りて奇警の議論をなし、また詩小說の作尠からず。女史の詩文はもとエクセントクックの弊に過ぐるもの多かりしが、年の長ずると共に、近年は頗る靈性的となりて、同時に、其文名に重きを加へたり。女史の小說『野心家』は實に我國閨閥家の規戒たるべし。

女史は彼疑問に答ふるに一新詩を以てし、十一月十九日の、紐育ジョーナル日曜紙、之を掲載す。壯快吟誦すべし。旨は、當代の詩人は、戰爭の如き殘虐なる罪惡の爲に、ミューズの神を煩はすべきに非ずとなすものなり。左に其意を直譯す。題は『詩人の題目』なり。

(1)この盛時の詩人、何が故に、
戰爭の忌むべき罪惡を謳歌せよと求めらるゝや。

(2)人命を以て怖るべき犧牲とする
此商賣の爲に、聲を揚げよ、讃へよとは。

(3)世界のなほ幼稚なりし頃、人類は戰爭を事とする獸類なりき。
戰爭はホーマーが歌へる唯一の題目なりき。

(4)互に力あるものゝ間には、競爭は成立すれ、
今時の戰爭は然らず。

(5)今や捷利の英雄濶歩して揚上たり、
彼は小人島に於けるがリヴァのみ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(6) 昔は人、正義の爲に戰ひたり、
今は戰士止むを得ざるが故に戰ふ。
(7) 彼の衷心には恥を抱く、
彼は人間の高尙なる律法を瀆すを知るが故に、
(8) アヽこの盛時に當りては、血腥き事よりも他に、
詩人の筆には、なほ價貴き題目あり。
(9) 一人の英雄よりも他に、（假令彼の屈辱は
謳歌を値いすべきとも。）
(10) 一人の者の價値よりも、多數者の權利こそ。
過ぎし戰爭よりも、來らんとする事柄にて。）
(11) 驚くべき富榮、驚くべき需要、
同胞の愛の增加、私慾の敗亡。
(12) 神の力に滿ちたる人間の靈性、
高きに到れとの聲。而して馬に乘れとの叫には非ず。
(31) この盛時に於て人殺の昔話の外に、
詩人の筆、聖者の口には更に適切なる題目無きか。
(14) 今の歌はざるは他なし、
更に大に歌はんとすればなり。
(15) 世界の待望める大詩人來らん時、
彼は戰爭の爲に歌を歌はさるべし。

講義

粧飾論一斑（中）

山形東根

（四）粧飾變遷の時期並に原因

前節に於ては人種の影響あるを說けりと雖も、粧飾の變遷する豈に獨り人種の影響にのみ限らんや、其重もなる原因と認むべきは大凡左の如くなるべし。

(一)宗教の影響＝佛教の我か奈良朝時代の美術に影響して宗教畫を多出せし如き、ピウリタン主義の英國社會に影響して美術一般を輕視したる如き其の一例にして、粧飾は社會の奢侈に流るゝか、富榮に至らざれば發達せざるものなり。宗教より影響せられて變遷する點は、佛教に於ては陰欝の風を爲し耶蘇舊教會堂亦然るものあり。神道は淡泊にして概ね白木の器具を用ゆる如き質朴の風を爲し、耶蘇新教會堂亦然り。禪宗の日本園藝に及ぼせる如き亦其例とするに足るべし。

(二)好尙流行の影響＝上流人士の好尙に變化生じ、流行を來せ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る時は、粧飾も一般に其風に倣ふて變遷するを免れず、多くは流行を追ふて之に應化せんとするを常とす。

(三)外邦勢力の影響＝例へば西洋の文化風俗技藝入來して衣食住一般の上に大變動を來せるは我邦今日の狀況に照して明かなり。和洋折衷の粧飾は、吾人の衣食住に就て日常見るを得べし。

(四)新發明の影響＝衣食住に關する改善は新發明によりて變化する者少なからず、一人之を用ゐて便宜なれば幾多の儕輩皆之に模擬するを常とす。

此外或は春夏秋冬の四季により或は男子の嗜好する所は婦人も亦好む所となりて變ずるとあり、或は互に衝突したるの結果新流行を招くとあり、而かも概して粧飾の變り易きを好むは輕浮なるか如きも多少進步的なり、其從來の慣習にのみ拘泥し去るものは保守的なり、保守は美術の擁護者たるも、美の觀念を新たにせんとするものは、古代にのみ着眼すべきにあらず。

(五)現今の狀態

方今我邦の社會は過渡の時期なり、制度文物已に大方は一定

せしが如きも年々歳々改革せらるべき種類の者舉げて數ふべからず、建築の粧飾、園藝及化粧の如きも從來の日本風あれば、和漢混合あり、或は西洋風を加味して和洋の折衷せるもあり、其千差万別の狀一々枚擧するに遑あらざるなり。試みに都市の一部を遊歷し來れ、和風の家屋あれば純然洋風なるあり、又和洋兼有の家屋あり、男女の服裝の如きも之と同じく理髮も亦同一の觀を呈す、異風異俗の狀態は一見して瞭然たらん。抑も此の如き變化は明治維新後に於て見る所にして、列國と交際せる結果ならずんばあらず。

今日の異風異俗は漸次自然に陶汰せられ、必ず或る程度を限りて一定するに至るべしと雖も、各種の者に就て何物か將來の優勝物なるかは容易に明言し難きものあり、唯開明國の風に倣ひ、人民の嗜好する者の永存すと云ふ法則は吾人の信ずる所なれば、將來の形勢も此點より推知せさるべからず。

(六)男子の粧飾と女子の粧飾

男子と女子とは其性情氣質を異にするが故に、一般の粧飾に於て自ら差異あるを見る、男は宏壯の美を愛し女は鮮麗の美

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を愛す、男は偉大を欲し女は細小を欲す、男は悲慘の中よりも美の要素を捉取せんと企て女は餘哀の美を認むるも概して悲哀を欲せず、彼は剛にして此は柔なり。然れども之れ歷史上より大觀したる論にして、個體に就て究むれば自ら多少の差異を存するに說明を要せずして明かなり。

生物學上より見れば、動物に於ては雄の身體頗る美にして雌は總じて醜なり、學者此現象を以て雌雄淘汰の作用となし、雄の美形を以て雌の情を惹かんか爲めなりと解す。之を野蠻人に見るに最も此理の適切なるを證するもの少なからず、未開社會にありては身體を裝飾するものは男子に於て甚だしきを見る、女子は男子の過度に裝飾する爲め其餘分なく往々にして何等の裝飾を爲さゞる者少なからずと云ふ。下等社會に至るに從ひ男子は身體に裝飾を爲すものなり。

吾人の身邊に施す裝飾と直ちに身體に施す裝飾との別あり是等を概して化粧といふ。化粧とは活自然物たる人體を以て一の財體と見做すものなり。左に化粧の價値に就て少しく究むる所あらんとす。

夫れ身邊に施す化粧とは、衣飾の類を云ふ。身體に施す化粧とは社交上の治髮、傅粉、衛生上の臟腑、文身、保牙の外、義眼、補齒、及跡（即ち義脚）の類を云ふ。是等の化粧たる其奢侈に流れさる程度に於て必す吾人の施さゞるを得さる所にして、時に之を必要物と云ふを妨けさるなり。西洋諸國に於ては男女共に通般の化粧を爲すヿを當然の事とし、特に衣飾、理髮、臟腑の法に注意するヿ甚たしきものあり。

惟ふに以上の如き種類の化粧は、社交上より必然起る所にして、自他相互の間に醜穢汚濁の邪念を脫却せしむるに與りて力あるか如し。第一に自巳の不便を除き第二に他人をして惡感を起さゞらしむるの効を存す。故に云ふ、眞の化粧は社交上欠くべからざる性質を具備するものなりと。女子たるものは特に衣飾と理髮とに於て天性注意すべき質を有す。

然るに世には化粧の眞義を誤解して、脂粉を施すヿを以て得々なるものあり、惟へらく化粧とは唯脂粉を施すにありと。夫れ脂粉とは俗に紅を唇に塗り白粉を顏につけ、墨を眉に塗り香水をかけ徒らに顏面を彩色するヿを爲す。誤れるの甚たしきものなり。脂粉は本來假象を補綴するもの、俳優の如きは其扮する所の假象の爲めに之を施す。俳優の職として素よ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

り之を咎むべきに非ずと雖も、常人の之に擬するは何ぞや。濁世の貴人、嬖妾、遊冶郎を始め藝娼妓、仲居酌婦、其他外美内醜の僞物は、皆これを爲す。此の如きは庸劣なるもの丶高雅なるものに扮し、老衰せるもの丶少壯なるものに扮する意の外ならさるなり。男女を問はず脂粉なるものは決して諸人の施すべき所のものに非ず。世に白髪老人の白髪染粉を購ひ、醜態の下婢が白粉を附け、遊冶郎の香水をかくる如き樣を見るたび毎に吾人をして轉た吐嘔を催さしむるものあり。要之、文明人は化粧に注意し、未開人は脂粉に熱心するものなり、化粧は人體保護の意あるも脂粉は假像を補綴して、僞り飾るものなり。身躰の美は其天眞なるにあり、其美をして益發揮せしめんとせば衞生に心を用ゐ、身躰をして圓滿に成長せしむるにあり、食物の如き大に關係を有す、但し第一の要點は、常に精神を快濶にし憂鬱邪惡の念を懷かさるにあり。

本邦古來の慣習として必ず女子に化粧するを良とせり。上來記したる如き主旨に從ふは可なりと雖も、習俗なりとて濃厚の紅粉を施す如きは不可なり、近時世俗の風を見るに概して淡薄に傾けるは大に賀すべき也。若し夫れ毎朝の所謂化粧の方法の如き最も便宜の法に從ひ、良好の材によりて施すべし。

家庭

花園小草

紫琴女

○人間といふ皮袋に、迚も入れた風ならば、程能き處に穴明けて、少し宛は氣も拔かする、さうでなうては一生涯無難に濟んで通れぬ事なり。天性風袋輕きは、少々無理な扱ひしても、綻びる虞れはなし。氣の充ちた袋ほどは、壓さば破れる外なきを、やれ厚い薄いのと、皮の詮索ばかりして、さてもとはいつも萎凋びた袋の無事息災を重寳がつて居るやうでは、氣の勝つた人間の扱ひ人にはなれぬ事なり。但何處らに風通しの間隙求めさせてよきものにや、夫れは其人の品性を教育に須つものなれば、一口にはいひがたけれど、物の道理より推も、此所弱點と思しき處へ、外部から紙粘付たでは役に立たず。夫よりも、捨て丶置けば、どうやら破れさうな處へ、疵にならぬほどの穴明けて遣り、其の所から通ふ氣息を、介添して、善き方角へ向かすといふ、是が何より人間皮

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

袋の扱ひ、上手功者といふものなり。

○吾家の息子は放蕩ものと、兩親のいつまで經つても世帶渡さず。世間の眼からは、別に馬鹿でもなき息子の、一人前になつても居るを、親は矢張三歳兒の扱ひ。さうせられては氣の勝つた息子などは承知がならず。迚もの腐れ、今の內なら、親がどうなとして呉れると、我が世帶には底ぬけの遊蕩出來ぬを承知のものほど、取越した放蕩と知らぬ老親が。や又百圓の穴あけた、噺婆さん今夜からは、五徳の炭團も一ッに減して寐やうぞと。爪に火鉢の灰搔き寄せても、炭一本無駄には立消えさゝぬといふ、心細い節儉も。流石老功老人はいつうつかりと寺參りの賽錢一ッ、一厘を二厘にはづむ例もなければ。酸のやうな節儉とて、さう侮つたものにはあらず。簞笥の底には、又もや金錢が、待て居ました、山々は大方こんな事でもあらうと、小言に節儉のお說法、なか〳〵聽聞もした駄賃、又々頂戴致し升ると。二度明ける穴四度三度ふさぐふたりが、さりとては、お氣もじ樣や、年々に屆んで來る背中を並べ、息子が使用ふた書出しの反古に、ぼつ〳〵富士の山腰粘しやう積りは待たず。やつと少しは出來た頃、又大荒れの大嵐。所詮はそんな追かけごくに、親は一生隱居になれず、息子は何日迄親爺になれぬ夫れよりは。よく〳〵の大馬鹿ものでなき限り、渡す時分に世帶を渡し、吉か凶かの其みくじは、息子の器量にまかすがよし、大ていならば、自分の爪に重荷を負ふての立廻りが、さう〳〵うか〳〵出來るものにはあらず、萬一凶にして見ても、皆無にした財產の、夫れが束修月謝になりて、何處ぞでは世智學問の、夫れが出來ぬ息子なら、迚も墓所まで連れて行て、後生まで乳汁呑ます分の。さうでなうては、親は安心ならぬ事なり。

○轉宅に妻を忘れた昔話を、珍談奇聞にしてゐれど、世には、もつと忘れつぽき金錢の勘定合ふて、壽命が足らぬそんな人は、隨分澤山ある事なり。生れて來たを承知の爪に、死ぬる事は忘れて仕舞ひ。嬉しや今日も是れだけ儲けた、明日もあさつて、今夜にも知れぬ壽命の不思議に續けば、續くものにして退けて、是れはいつしか算盤の桁に外した算用ほどは、追々綿密精細に、算盤持つた嬉しさは、花も紅葉も何ならず、何處の阿房が月見に行くと。我は居ながら、屋根の下、障子鎖を締切りても、圓滿な月勘定が、山の端ならぬ膝の上から

出玉ふ樂しみ。心も空に浮れては、元來が何に使用はふ望とて、溜め掛けたかも忘れて仕舞ひ、忘れぬものは是一ッの、夫れ見て居れば、年の瀬も一向超えた積りはなきに。三途の川から地獄の鬼が、是は意外なお迎ひ受けても、門違ひかと合點せず。まだ〳〵溜める金錢もあり、壽命は確に幾万年。是は神や佛といふ受請所に賽錢の前金拂ふて買ふてある。今死ぬるものならば、利息を附けて返却して貰はふ。いやまだならぬ、六文が手形でも、錢の要る道中なら、おれは一生せぬつもり。折角ながら十万億土に、現世より儲かり口が出來た時、報知せに來て貰ひ升ふと。鬼との應接手間どりては、極樂々々の往生出來ぬを。おいとほしやといたはる妻子の、手が唇に觸れてさへ。末期の水はまだ早いぞ、貴樣等までが死ぬのを待て、あの金錢はどふする氣と。自分がどふする氣で居ざりし、夫れは忘れて誰れへの問ひ。世に氣の毒はかうも勘定疎略な人なり。

○秦の始皇が、不老不死の仙藥を求めさせたを、人は榮耀に飽きてといへど。何の榮耀に飽きたものならば、變化なきに望を失ひ、いつそ彼世へ征伐を思ひ立たふかは知らず。いつ

迄現世に居たいを見れば、始皇でさへもまだ八分の、慾には迚も榮耀盡きぬものと見えたり。

○おつとの大酒、是ではならぬと妻の憂ひて、一升に一錢宛、溜めて見れば大きいもの。一圓になつたを見せて、こちの人、たしなまんせ、此通り。お前が呑んだは三十倍。汗にか水にか、但しは又着もの丶垢にも殘つて居るかえ。酒臭い其氣息が、抵當になるものならば、三十圓たつた今借つて來て見せさんせ。私は是で小供の着もの、お前には係らぬ春衣を着せて見せ升ると。錢入れ持て出た跡を、成程なと合點して。餓鬼よ、お前は仕合せものじや。乃公ばかりでは着られぬ着もの、今におッ母が買ふて來る。おれも是から酒止めて、帶一筋ははづんで遣らふと。夫れから頓と呑む事止めれば、猶更酒屋の門口に、鼻がどうでも承知せず。匂ひだけ嗅ぐつもりが、呑む氣になつて、又うか〳〵。前より大酒、夢か現の境にも、酒買ふ錢の皆無になりしは覺えて居て。是婦よ、後生じや、拜む、お前の錢、少し貸して與れないか。明日は稼いで返すといふ、乃公は亭主じや、一晩位貸されぬ事はあるまいと。女房の懷中床しげに、杯持つて眺めて居るを。お前さ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

んといふ人は、私にお錢が何あろふ、今夜もお米買ふ錢がと、半分いはさず。ふッふゝゝゝ、尤もじや知つて居る。夫れは小供の着ものになる、錢とは合點して居るが。其處が無心じや。其内を、一尺ばかりは借れまいか。ならば五寸でしんぼふしやふ。端錢だけも有難いど。あるに極めての相談不審に、思ひ出したは春衣の事。いつ迄夫れがあるものか。われはあの時お前への異見に溜めたが役にも立たぬ、大酒見ては愛想盡き、お前よりは私の方が、疾うに止めて居るのじやぞへ。嘘なら是見て下さんせと、何日から投げた財布のほとり、押入の隅から引出し叩いて見せるに。是はどふじや。おれは又大分大酒呑んだゆへ、定めて手前の懐中も、熱燗と思ひの外な冷酒め。役に立たずが呆れると、徳利擲げての立廻り。一生其緣切れざりし。

○世の中に鰐魚や獅子の口が大きいとて、手品師の藝がどれほど巧みとて、迚も大酒家の、口と手に及ぶはなし。どんな大きな家屋地面、都合に依りては妻子まで、がぶりと飲んで仕舞ふお手際。どれほどの咽喉かは知らず。動物學者、人類學者も他所に見て、歸天齋正一の弟子入せざりし不思議な事なり。こわや怖ろしゝ猛獣の日本になきは、口幅の詮議に及ばず。唯婦人は飲酒家の咽喉にかゝりて、一生を呑まれぬ用心肝要なり。

○戀はまことをかしきものなる可し。されど戀に比らべては、男子はあまり忝きものにはあらず。男子には女子も亦嬉しからぬものなる可し。神聖なる戀を戀として、始終を傷けざらむには、春の花の、待てば笑みて迎ふるあり、秋の月の、對へば心を照らすあり。空飛ぶ鳥、流るゝ水、情の眼には、森羅万象、戀人たらずといふ事なし。必しも人間のふところに、請からぬもの探りあて、生涯を戀に背かむ事やはある。

○男子の缺點は男が見出し、女子の缺點は女子が見出す。兎角異性の間にては、氣の注くまじき缺點も、眼に入るからの皮肉批難、たしなみあるは、口にこそ出さね、好く思はねば思はぬ響きの、是も亦同性の間にては、至音感通鋭きものなり。あの人は可怖な顔して私を見た、是は乾度あゝかうと、氣を廻す其的が、同性は異性より、蛇の道なるだけ、へびの眼に射込易き急所をば刺されては、一の矢を放ちし方でも沈默で居ず。睨み合は、かゝる邊より、愈大事に入り易し。夫

れかわらぬか、養子婿の小言を多いふものは、姑よりも舅にて、嫁の小言をいふものは、舅よりも姑なり。親子同胞、其親き中にても、父親が秘藏は兎角娘にて、母親が大事がるは、男の子に多し。況て小舅姑よりはじめ、他人は猶更譏るものは、異性者の同情なき間柄と、思ひの外な敵は同性同士討の、夫ではあまり勝手が違ど、どうやらさうもありさうな世間なり。

○阿房よ馬鹿よ意氣地なしよと笑はせてさへ置けば、世間はいつも御機嫌なれど、割に小癪な事をする、少しは人にも持てるかと思へば急に其缺點を、ほぜくり出しても見たくなり、どうでもおのれと肩をすれ〳〵、同じほどの脊丈けに引下しても見ねば、何れに腹は癒ぬといふ、是は兎角俗情におり易しといふが中にも、對手は矢張上下共に、其距離の遠からぬ間柄にて起る事なり。迚も叶はぬ屆かぬと、渴仰もするほどに、高い〳〵隔りなれば、對手がよしや是はとばかり、雲間に羽を伸す迄も、夫れには糸のたよりを求め、ならばどふぞ、引立ても貰ひたさ、意氣地なきは媚び諂らひ、意氣地あるは、我も亦あんな人になりたしの、真似する迄に止まれど、同じ價値と思ふて居るが、急に都合能きを見ては、無理からの難儀をも付けて見ねば、迚も堪忍ならぬと見へたり。さすれば人は一生を、底の底の、も一ツ底の、是より下はなしといふ、淵の淵にも沈んで居れば、お氣の毒や、お可憐さう、少し助けて上げ升ふの、助け船は其所にも此所にも、手の内を施すほどの慈悲は誰にもある事なれど、どちら付かずの中ぶらりんが、小癪にぴよこ〳〵蠢いて居ては、直ぐお隣りの上下から、突刺す針はあるものなり。さりとては、安心ならぬ世の中に、一生を氣の毒がらせて生活すも功徳か。但しは迚も群山が及ばぬ丈は比らべて見ぬ、富士ともなりて、雲間より、超然の氣を吹下し、下界の俗衆得心させて遣りたきものと或兄姉は語られぬ。

○流行に連れて田舎の豪家が、何の氣もなし、其娘子を女學校へ入學させられた當人も、何角は知らず、卒業せよといはれての、精神教育なき女學校を卒業したる、是ほど新娘が跡の始末に困るはなし。天晴れの我娘を、嘸かし人は懇望と思ひの外な顔顰め、夫れでは迚も家風に合ふまい、女子は裁縫料理の、夫れにさへ堪能ならば、外の藝はどうでもよし、生もの識りの嫁貰ふて、古風な舅姑が肩身狭めう、夫れよりは

從順が第一。我家の嫁は、我家の自由になるものかと、先づ最初相談受ける、親類からが首を捻りて、止めだてするが十に八、二分はどうかと思ひての、貰ひに掛りし先方の兩親も、是に矢張二の足踏んで、縁談は夫れなりに、敬して來るは遠ざかり、近寄て來るものは、縣會議員の夫れよりも、も一つ飛んで、衆議院にも出たしといふ、野心家の、息子と見ては、有る財産も、是は末の危險きものと、呉れ人の方で承知が出來ず、成るは否なり思ふは成らぬ年は經つても、田舍にて夫れほどの娘樣を、お嫁に貰ふ家とては、さう數のあるものにはあらず。夫れには夫れ〳〵當りを付けての末がかうと極つて見れば、詮方がなしと、少しは投げる氣はあつても、歴々の家の顏が承知せず、矢張そこ〳〵財産の權衡を持つ家はどいふて、遠國までは聞合されめ、家に居ては近邊を、幾里の外は交際なき兩親が、さりとては學資金入れた娘子に財産の手前までが手傳ふに、さながらの少給敎師には出されもせず。初手は村への外裁やら、家の譽れにしてありし卒業證書を見る度の太息にせらるゝためしは、何處の郡の隅はどは、あり易き是沙汰なる。所詮は誰の咎にもあらず、最初より嫁入を念じての裝飾主義にもする事なれば、土地の氣風に殉ての、入學沙汰にせられたし。まことは左はなく、娘子がゆく〳〵の爲にとあらば、何處迄も昔氣質をさらりと捨て、縁談を財産の權衡に俟つ、そんな古風な事はせず。やがて佳人が才子に邂逅ふ夫迄は、且し獨身も苦勞にならぬ、珠の光輝をいよ〳〵磨かせ、折角に其敎育を新しくせし者ならば、其縁邊をも當世の新しき方面に求て行く、夫ほどの工夫覺悟は、御當人こそ迷惑の、第一は親御の方にありたきものなり。

○男性同士の間の男性と、女性に對する時の男性は恰ど女性が、女性同士の間にて、する事、いふ事、思ふ事、男性に對する時とは、全く違ふほど違へり。女性が見る男性は、多く無邪氣應揚にて、偏執の心も薄く、義俠心もありげにて、何とやら賴母しき人格に見ゆる事なれど、是は男性が弱性と思推する女性に應接する時のみ、遺憾なく其美所を、發展せらるゝものなるらし。男性同士の間にては、さうはなきものと見え、一座の男性ばかり集合せらるゝといふ團體の、彼處にても此處にても、昔より女性のものに極られたる偏執猜疑の、なか〳〵に横行し、些細な苦情爭援のいつも絶ぬもの、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

やうなり。夫れと同じ事理にて、男性が眼に見ゆる、女性は嫣や優しく憐れにいかばかりたしなみ深きものと、思ひの外な細き眉逆立てゝ、薄き唇翻す、夫れはよし長屋のかみ樣ばかりが形貌に出し、身柄あるは意地悪き睨み合に止るも、意思に同じ喧嘩口論、あられもなき相貌を、男性の前にては、憚るからの愛嬌もある事なり。是ぞ異性に對する羞恥の、双方が其所ばかり見て居ては、兩性の差別は、判然と立つて居る事なれど、一方ばかりを集會させての、其所を探れば、男性に思ひの外なる女々しさあり、女性にも思ひの外なる剛情あり、何れを双方人類が持ち合したる美德も缺點も、一方にあるものは他方にもあり、此方にあるものは、彼方にもある量と形式、少し替りたる迄と思惟するが早解なる可し。

○雪の日やあれも人の子樽拾ろひの眞情は、子持たぬ間には深き味分らぬ事なり。はれも十六七歲の頃、何角はなしに、もの丶本書寫する事好きにて、俳家畸人傳の、夫れも手當ゝ次第寫しゆき、不圖此句に接したる時、成程と一わたりは合點して、情け深き句とは覺えしかど、子を持てる今にして、此句を念頭に浮ぶれば、何とやら胸塞りて、泪さへ止めがたし。彼時のは、道理の上にて、會得せる憐れにて、今の時のは、我身我子に思ひ比らぶる、其所迄はまだ理屈も走らぬ間に、身うちは寒く、胸はきゝと痛むぞかし。總じて人は、其身其境に觸れでは、まことの心もちは辨へがたし。是れは今やう〳〵親心を、身に知れりといふ迄にて、また纏まりたる想を、美しき文字詞にいひ顯はさむ力とてはなけれ。子を持つ事の戀よりは如何ばかり人の心を優しくするかに思ひ到りては、いつも此句に返す〳〵ぞ味ひぬる　事の序に懺悔せばや、われも女子に包ましき事なれど、一躰はあまり子供好かぬ質にて、子持たぬ以前は、余所の子の見るからに容貌淸く愛嬌ある、夫れには我知らず詞掛け、あやしたる事はあれ。久しく我手に抱き上げ、汚穢ものゝ世話せむほどの心は出ざりし。况て見るから汚げなる、夫は何どやら氣味惡くて、他所にのみ見流せしに、子を持つ今は、途上に行逢子供等も、美麗きは、只可愛しと見遣のみ。汚穢は深く心に掛り、ならばあの垢拭いて遣りたし、あの着もの着替えさせて遣たしと、我子人の子夫れは忘れての歩み。人力車の上には束の間に一町半町離れてからが心添けば、思ふばかりが何にもならぬ苦

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

勞を我から微笑て、殘る心を振向く事もある身となりぬ。今のわれ、以前のわれ、何に替りたる處はなし。唯子を持てる一つにこそ、心の角の一筋は、確にぼきと、折れたる心地はすれ。

○實子ある繼母を、人は兎や角いひ斷やし、實子なきは、少し批難も寛きやうなり。されどわれは、おのが子持たぬ人の、人の子を世話するに、さしも實母が實子をいたはるやうな愛の紐、心に解けて居るものにや。親心といふもの少し知りてより、不圖此問題に疑を狹むやうなりぬ。實子と繼子の隔てなき、夫れは素より凡人に望み難き事なる可し。唯彼には愛の尋常ならぬ對照あるを以て、是には稍少し溝きたも、他人の眼には、あまり眼立ち易きにはあらずや。子持たぬ人の子煩惱、夫れは子持ちの子嫌ひより、何處やらに氣短き處があるやうなり。さはいへわれは一日半時、繼母にも繼子にもなりたる事なければ、確には知らず。但遠くは基督の御蹤に鑑み、近くは基督を學び玉ふ方々が博愛の親心、必しも地の上に我子を生みしより來るものならぬしるしを見ては、其疑ひ朝陽の霜と消えゆけど、其は萬人に望み得可き事なるにや。

われは唯なべての人が繼母となりたる場合には、實子の愛を知りたると、知らざるとは一利一害なる可きやの心は今も二途に迷へり。

○夫婦喧嘩を犬も喰はぬとか聞けど、親子の仲ほど、いゝきじめの利かぬものはなしと、或母親の述懷されし。われに一人の娘もてるが、十七歳といふに、兎角はわれのいふ事聞かず。從順ならぬが腹立しさに、もう〳〵そなたのやうなもの、我娘とは思ひもせじ。我からは構へてものはいはぬほどに、そなたの好きにしたがよしと、吃度親の威光見せしに、娘も流石うしろめたくや、こそ〳〵と二階へ上り、良久くは其室に音もせず。時刻移れば、はれも何とやらの心もとなき、身を梯子の影に隱して、そと二階を覗けば、娘は眼敏くわれを見付け、ほゝ母樣のだんまりは、三十分しか續き升んねと。憎やわれは一生懸命延ばした時間を、彼方は新聞讀んでの勘定、親子ほど世に合はぬものは外になしと、聞てはわれも身につまされ、坐ろ微笑は止めがたかりき。誠に人ほど勝手なものはなし、他人が詞はさしもなき惡言の、どうやら少し胸に殘れど、我子が我に逆らふ詞の、これは理屈と心

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

で褒め、あれは兎角強情もしのもひよつとしたらば望のある人間にもならふかと、親の方から能き方に取消して、懲すも一時、やんがては緩んで來る類のあたりを見込まれては、折角の折檻も、却て威信を墜す甚の親心は、大人になりし子を持つ頃も、何れは是に過ぎざる可き、夫れが何より子の毒なり。

○寄向島百花園戀

砦寛の子

我が思ふ
人のありやと　隅田川
芝の折戸に　おとのへば
　臙脂の薫り　わともなく
　香るは　庭の梅の花
「お茶一杯　きこしめせ
　梅ぼしも候ぞ」
甘酒もなく　また絃もなし
　薫るは　庭の梅の花

大礒だより

病家見舞を讀みて

湘煙女史

女學雜誌某女が病家見舞と題する一篇を讀一讀して、感服措く能はざるなり。無病者はこれをよみて、病者の如く感ぜざるべし。其項中、尤も手を拍て贊同せしは、「靜かにして音のしない着物、例へばかひきの裏などにて、シユウ〳〵ベサ〳〵と云ふ着物をきて、一起一坐に音がする時に、中々神經質の病人は其れが爲めに餘程苦しがる者です」の注意なり。吾れ如此の語は、未だ曾て耳にせし事なく、而吾が性もつとも此の音を恐るゝものなり。吾は、われのみこのおとを忌むものにして、世間亦吾の如きものはあらじと思惟して、曾て人に告げし事なく、そは餘り我儘に類するを耻てなり。唯、母君にのみこれを告げ、わが衣服には、おとのせぬものゝみを用ひ來れり。發熱前、悪寒の氣味ある時、この音を聞く時は、滿身忽ち粟を生ずるの、感あり。此一篇を讀みて、感嘆

の餘、見舞人の深切、却も病者を慰むるの料とならず、却て、僅病勢を添ゆるの種となる一端を擧て、更に某女が病家見舞一篇の價値あるを謝せんと欲す。近日來りし見舞人を假り來れば、廊下の足音、已に枕頭に響き、障子を開くや、開口一番、相變らずお休みですチ、いや大御無沙汰、實は常に心にかゝつてゐるのですが、どうも忙しき事非常です、今も、小田原の歸りですがチ、殆ど夕べも徹夜で、けさ風月堂をと心に約して居たですが、一番發車に同行者があつて、二人曳でやつと間に合つたといふ次第といひつゝ、手巾をとり出し、襟元を一撫しつゝ、外は大分の風で、呼吸が出來ぬほどの塵埃です。更に手以て額を擦し、ジヤリ／＼ダ。それに、汽車の中は、窓を閉了て、煙草を燻ゆらすんですから、たまらないでした。此時母堂の來りたれば、やーいつもお丈夫で、然し世の中は甘くゆかぬものですチ、年中御病人かた手ですから。お氣のやすむ間もありますまい、一所に嵐山の石花遊でもなさるやうですと、へー養正院様の七年、成程碑が建ちましたか、お一人で御歸京ですか、御親父の碑御覽になる事出來ぬとは、殘念ですチ、ほんとに親一人子一人お心細いですとも、七十餘の高齡で、御介抱、おこたへなさるでしやう。吾は此時、眼を閉ぢぬし彼は、思ひ出した如く、懷中時計を見て、十五分、間に合ひましやうチ、何か東京に用はありませぬか、いづれまたと、語をのこして去る。去るものも走れば、玄關に送るものも走る。枕邊の障子も、足元のふすまも、開きしまゝなり。玄關に送りゆきしものは、はや障子ふすまの開きて、風の入るにまかしてある如きは、忘れて、玄關前をながめつゝ話して居るなど、これらは、病者にとりて、迷惑なる見舞手の一人とか謂なり。

綺羅四邊を射るとも射らざるとも、病者には何の痛痒なし。唯屈伸の自由ならぬらしき態度は、病者に及ぶ影響少なからず。其窮屈らしき身を、閾どしに、極く低聲にて、殆ど一年間佞互に生せし事柄を、挨拶的に說き、三句四語毎におもたけなる丸腦を上下せらるゝ、病者と雖も何とかいはねばならず、此間の病苦、なか／＼他人の想像すべきにもあらず。稍くこの挨拶がすみ、病者の口を再三勞して後、閾の內にはにおりいりしも、下女が茶菓を運ぶ路全く防がれたれば、下女が來る都度、キューと音のする帶を屈める。下女は辛ふじて

撥丁す、過ちせねばとの心遣ひ、是又なか〳〵にうるはし。茶ものまず、菓子もつまゝず、話しもせず、これではあまり無愛想なりと、病者は頻りに話しの製造に苦辛する。問ひには、判然と答へず。吾語るも彼聞ておもしろげになし。これにて、二時間程坐はりこまれる。これらは、病者が喋り過て、疲れるに勝る萬々、遠く坐して、默して對する時は、眼の疲れ容易に回復せざるを覺ふ。これらも、亦おもしろからぬ見舞手の一人と可謂なり。

春暁

新晴漸放喛、梅花契前庭。
春曉閑人賜、鶯聲帶夢聽。

春夜

何鄉不好土、身病百慮澄。
夜坐知花默、暗手春一燈。

隨感

○子を失なへる友を慰さむ

吾友、愛子を失なへり。われ慰さめて曰く、曾て聞く生別死別皆な悲しきうち、子を失なひたるの悲しみを最とも酷なりとす、未だ經驗せざる族の所詮想像し得ざる所ろと。然り、經驗せざるもの丶同情は淺くして淡し、薄くして乏し、反つて其の喧ましきに厭はれんとするが常なれども、余は平生數しば自から想像して、万々一にわが愛兒を失なはゝ如何にせんと掛念し居れり、半夜之が爲に夢み、驚ろいて其の悲慘寂寥に哭するともありき、則わち預かじめ心に約して獨り先づ慰さめんとするの情理を立てたり、今試ろみに之を告げて君が深酷の歎きに獻げん、庶幾わくは貝を以て大洋の水を酌み、少ばらく兒戯に托して鬱悶を忘れ玉へ。

夫れ、人の生命の長き短きは、何をもて言ふや。年を重ねて壽なりとし、年低きくして短命なりとするは世の常なれ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ど、酔へるが如く生き、夢むる如くにして死せば、百年の壽も長きにあらじ。之を惜しむときは、長きも尚長からず、之に満足せば、短きものも尚は必らずしも短かゝらじ。左らば、偏えに年月の多少をもて之を算へんとするは、情に於て安んずる所にあらじ。われ惟えらく、世に生きて人の益を為すと多く、世を離れて人に念はるゝと長からば、其人や壽なりと云ふべし。吾儕が在世の長短を言はんには即はち此によりてせんとは覺悟しつるなり。扨ても幼なき人の死は、壽か短命か。われ惟えらく、其の多くは寧ろ生命長きものなりと。彼の死は、終生の恨事、絶大の愛惜、大凡は知りたらんほどの人に長く紀念せられずと云ふとなし。彼は未だ曾て他の怨を引かざりき、彼の笑顔は断えず人の祝福にてありき。人生れて其死に至る迄、何等の罪を犯せしとなくして、只だ但だ人の悦を為せしものありとせば、それは蓋し幼な兒ならん。彼を抱きて其の笑ひを見たるものは忘れがたし、彼を手引きて同もに遊びたるものは忘れがたし、況してや、之を産し、之を育くみ、四六時中、其の生ひ立ちにのみ憂慮しつゝありし父母同胞に於てをや。嗚呼、死せし幼な兒は、曾て之を見たる人の終生に紀念せられて曾て忘却さるゝとなし、即わち長命にあらずや。尚且つ彼が死によりて與へたる教訓は、幾多長廣舌の説法にも優れり。いかに頑冥不靈の族も、子を失なひて而して動かざるものあらんや。其の感動は、倫理論にも優れり、一生の浮沈にも優れり。頑是なき無邪氣なる一小幼兒の死が人の為に如此き絶大の事業を遺すとせば、誰か其死を惜みて之を不幸となすや。白髪の老翁長く生きて恥多く、遂に何等の益も為さで反つて世に爪弾きせらるゝものすら多かるに、世年僅かに五指を屈する計りにして而も事業如此し、豈に譽れならずや。

又、世を卒えて肉を脱し、靈躰を衣て靈界に遊ぶ。靈界は即わち神靈の道場、天父自から教化を建てるの聖壇なり。吾が兒、吾が過失多き庭訓より離れて、直ちに彼岸の聖なる道場に征かんとす。父母門によりて愛子の學に旅立せんとするを送るに際せば、たとひ涙ありと雖ども亦た慶こばしからずや。嗚呼、人間暫らく世にあり、世に在りて時來れば則わち招かれて世を辭す。其の時に早晩なし但だ天父

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の可なりとして招き玉ふ時を最可となす。左らば、吾が子の招かれて天の學校に入り得べき時期恰かも到來し、則わち天父之を招き玉ふ。其時可、其期可なりとせば、吾豈に歡こびて送らざらんや。基督曰く、幼な兒の吾に來るを妨たぐる莫れと。吾豈に之を妨たぐることをせんや。况してや、既に母の先だちて其の天堂に之を迎えんとするあるをや。天の幼稚園には、好き保姆居ませり、更に益す安からずや。嗚呼、吾友の如きは、たゞに其の保姆あるのみならず、同じき胞より出し其の遊び友達すらあるにあらずや。

夫れ、親しき人の在る所は　遠しとも近し。吾が愛者を失なひて、其の先づ天堂に入りてよりは、來世は現世に確かに接續し、天國は正に此の國に隣れることを信じ得たり。遠きもの近くなり、暗きもの明かくなり、朦朧たりしもの現實となれり。母を葬むりて後ち吾が子は嘗て吾に問ひき、もし天國にあるカアチヤマに郵便を出さんとき、彼のお墓の下に入れ置かば届くべきやと。われは此の信仰を笑ふべき者とせずして、莊嚴なるものとなしたりき。嗚呼、尤とも親愛せる人の行ける所は尤とも近くなれり。何んぞ之を隔たれりとして空しく長恨せんや。

友よ、友よ。君に贈る千行の涙、此の涙、絶望の涙にあらず。偏へに君が情に同じて而して同もに感謝の涙とはせん。

○知己少なきを奇しむなかれ

人の知らざるを患ひず、人を知らざるを患ふ。知己をもとむるは素と是れ人の通情と云ふと雖ども、知己の得がたきも亦た世の常狀たることを覺悟せずんばある可らず。凡そ、世に於て吾の尤とも久しく交はりたるものは唯ぞ、即はち我自己にあらずや、而して能く我自己を知れる人幾何ありや。世に於て尤とも我に信切なるものは唯ぞ、即はち我父母にあらずや。而して能く我父母の愛情を察知するもの幾何ありや。左れば、人の吾を知らざるを奇しむなかれ、わが多少の誠意の容易に人に徹しがたきに氣落ちするなかれ。

○大丈夫の忍ぶ戀

戀愛は、半ば猛烈なる剛慾を含み、半ば高潔なる獻心を存す。

淑女大丈夫、その何れにか傾むかんとするぞ。苦悶を壓到し、痛心を撫で、身を削り、骨を刻むも、强ひて我益を計らず、只管らに以て他の心情を安んぜんとを欲す。此際此心、親しく自から經たるものにあらずんば、其の苦しきこと、其の氣高きことを知らず。東洋の男子數は揚言すらく、一度び心に懸けたるものは必らず獲ざる可らず、獲て後は久しく惜しむものにあらず、一旦執着したるものを必らず成就するは、快男子の意氣地のみと。憐れむべし、狷勇の好漢遂に文明の聖戀を覺らず、我意中の人を弄して熱血の玩具となす、眞に忍びがたきにあらずや。心中の賊を平らぐる、山中の賊を平らぐるよりも更に丈夫の本領とせば、わが猛烈なる慾望を寸斷し去り、わが共棲和樂の幸福を雲煙に附し、わが堪えがたく忍びがたき煩悶を强ひて冷却し、悠々天の慈愛に則とりて、又潔く渠が一生の祝福を祈らんとす、亦た男子の意氣ならずや。凡そ此般の事、女性に於て寧ろ成し易く、男兒に於て多く難しとするものは、何故ぞ。世上多血の好漢子、もし能く此際に忍ぶ所ろあるを得ば、未だ曾て見ざる一道の大光明に觸着せんとする也。

雜錄

偶像を拜め

蓉荒の子　有美

《偶像崇拜は善を讃賞し美術讃賞は美を崇拜す》
《木石を拜むに非ず假象の善を拜するなり》
《美術の讃賞は實感を伴へども偶像崇拜は然らず》
《製作美術は偶像崇拜を待て其極致に達す》

木石に人工を加へて、しかも之を神明の權現なりと崇拜歸命するは、萬物の靈長たる尊き人間の身を以て、自らその眞價値を賤ふし、以て無生物に跪き、己が手の巧みに額づくものなりとて、偶像崇拜の非を鳴らさんとするもの、滔々としてそれ今の世に多し。唯物の文明を誇らんとするもの之を唱し、厭ふべき鑛物主義に隨喜するピュウリタンと稱ふる仲間の流れを酌む所謂正統派の基督教徒なるもの、又素より斯の說を吹鼓するに熱實なり。されど、こは愚かなるものの淺見のみ。」もしこの種の論者の說くところを推し究むれば、かの美術的製作物とは抑々何ぞや。これを繪畫に就て言はゞ、たゞ煉り脂と布片とに過ぎざるに非ずや。之を彫刻に就て考ふるも又

同じく泥土の結塊のみ。されど、人はその泥土と脂とに手の巧みを加へて、嘆美觀賞至らざるなく、曰く、天才の製出物なり天來のインスピレーションなりと。而して偶像排擊論者の如きも、また其聲に和して得々たるが如し。豈にこれ一種の怪むべき矛盾ならずや。

崇拜と嘆賞と、一見はなはだ徑庭あるが如しと雖ども、詳に思へば、共にこれ同一種類の心的作用にして、善に對する嘆美觀賞は即ち崇拜となり、美に對する崇拜歸命は即ち嘆賞となるなり。美を拜崇するはよろしく、善を拜崇するはよろしからずといふの理、素より是れあるべきいはれなし。かの美術的製作物を觀賞するといふは、今の美學者の概ね相同じて異論なき如く、その對觀物たる煉り脂と布片と泥土の結塊との實在に嘆美觀賞するに非ずして、これによりて以て生ぜらるゝところの假象に美の所在を歸し、茲に始めて嘆美觀賞の念を起すなり。偶像崇拜のこと、また相等し。かの偶像に頂禮して、之に拜むといふも、その偶像を作れる木石紙片の實在を拜崇するに非ずして、この實在物が人心に感應して更に生ぜるところの假象に頂禮歸命するなり。美術產出物の假象のうちには、美の神その宮居を占め給へど、偶像によりて生ぜらるゝ假象は、即ち是れ善の所在にして、實に我が善神の宮殿なり。故に以爲らく、偶像を崇拜するは、これ木石を拜むに非ずして、その假象たる善を崇拜すること、猶ほ美術製作物によりて、美を觀賞讃嘆するが如しと。然らば、如何ぞよく、かの文明を鼻にかくる世の學士家と、自ら僭して善神に誠忠敬虔なりと稱する乳臭き基督敎家の如く、偶像崇拜を以て、これ人間の品位を卑しめ、命ある靈長の身を以て、下劣なる無生物に下るものなりとして却くるを得んや。嗚呼、これ善を拜するなり、我が善神の顯現に近づくなり。されば、世に美術觀賞のこと、遂に廢れざるの間は、偶像崇拜のこと、又跡を絕つに至らざるべし、否な人は之を排擊するの權利だになきなり。さても今の西洋文明と基督敎家との血迷ひせることよ。

しかのみならず、若し我れをして極論せしむれば、偶像の崇拜は、美術の觀賞よりも尚一層高尙にして淸雅なるものなり。之を人心最高の發展と觀る、或は可ならんか。夫れ美術製作物の、假象によりて人の心に觸るゝや、必ずや先づ假感

を起し美感を生ぜしめざるべからず。而して、假感といひ美感といひ、皆な是れ實感を作ふべからざるものにして、慾望の其間に立ち交はるを許さゝるは、素より論なし。このことたるや、古るくプレトーの口開きし、カント以後の美學者が、共に稱道せるところにして、美術の典雅高尙、よく人界の穢醜に汚さるゝことなく、超然として神聖侵すべからざるところある所因なりとす。然れども、これ僅かに漠然たる美學者の空想たるに過ぎず。實際は未だ之に及ぶこと遙に遠く、美術の觀賞はたゞに純正無關心（アンインテレステッド）なる假感を起さしむるに止まらずして、必ずや之れと共に慾望を作ひ生ぜしむるを常とす。人もし試にラファエルの畵と鳥佛師の彫像とに觀んか、その美はしく秀でたるもののあるに恍惚として、たゞ之を嘆美讃賞するのみを以て自ら足れりとせず、必ずや其畵と其像とを我が所有に歸し、之を我が家に移して放に賞翫し、或は之を世に誇らんとするが如き慾望私心を挿むに至るべし。是に至りて、美術製作物の觀賞は、俗氣頗る縱横し、其高尙淸雅の趣味を失ふものたらざらんとするも、豈に得んや。然りと雖ども、偶像崇拜にありては、たゞに崇仰渴仰の念を起さしむるにとゞめて、此の下賤卑劣なる私心慾望を誘ふが如きことあるなき、淸淨潔白無關心の感念なり。誰か阿彌陀佛に拜跪頂禮したるの故に、その佛像を懷にし、家に盜み歸りて安置せんとするものあらんや。故に以爲らく、偶像の崇拜は、製作美術の翫賞に勝りて、一層淸雅高尙なるものなりと。

又製作美術の進步は、偶像崇拜を待ちて、始めて玆に其極致に達し得べきものなり。我が邦の美術製作品が、この偶像崇拜の行はれたるがために、著しき長足の進步をなしたるが如きはいふもさらなり、希臘に於ける殿堂彫刻の燦爛は、偏にかの邦に行はれたる偶像崇拜の賜物なり。希臘民族にして、若し鑛物主義なる厭ふべきピユウリタン宗徒の如く、激甚無類なる偶像排擊者たりたらんか、アゼンスの群神堂ヴエルヴエデール・アポロの偉觀妙麗を觀ること能はざりしや必せり。知らずや、偶像を却くることと姦淫猥褻を誡むるが如く夫れ激しかりし希伯來民族の、如何に美術製作に乏しき國民なりしかを。夫れたゞ人の翫賞のためにせんとするの美術製作は、觀るものをして僅に快からしむるを得ば即ち足る、然れども

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之を崇拜せしめんとする製作物に至りては、其作者たるもの自ら非尋常の用意勵精を以て、茲に其手を下さゝるべからざること、かの普通の翫賞のためにする製作物に於てするが如く、しかく易々たるものに非ず。加ふるに、その發情法の如き其うちに宿さるべき理想の如き、又たゞ箇人翫賞のためにする製作物の如く、野卑拙劣のものたる能はずして超絶至高のものたらざるべからざるに至る。隨てその形式の完璧に近づくべき如きは、理の當然なりとす。故に曰く、製作美術は、偶像崇拜を待て、始て其進歩の極致に達するを得べしと。我れを以て觀るに、歐洲の中世史に於て、美術製作が羅馬加特利加敎會政のもとにありて、著しき發達をなし、歐洲の繪畫史に一新生面を開くに至れるは、かの羅馬敎會が頗る希臘的傾向に同化せられて、本來の希伯來趣味を減じ、稍々偶像崇拜の傾あるに至れるに依るものゝ如し。希伯來の排偶像主義、素より一概に棄つべきものにあらざらんも、こはたゝ文明の一要素たらんがための、我が淨神の施設のみ。この時間の末世に生れ出でたるものは、よろしく是に考ふるところありて、徒に希伯來思想の皮想に拘泥することなく、これに優麗なる希臘趣味を加味調和し、心より偶像を崇拜すべし。これ木石と人間の工を拜むに非ずして、假象のうちに所在する善を拜し、我が善神に近づくなり。

海舟先生逸話

海舟餘波

禁轉載

◎私は子年（元治元年甲子）から先生にお目にかゝつて、其後門下生のつもりで居ますが、あの頃、佐久間象山と較べれば、大抵の人は象山の大評判に迷つて、海舟先生の方を下の様に思つて居ましたが、實は決してそうではありませんでした。象山の殺されるとも、一と月前に海舟先生が豫言して居られました。丁度、私等は其頃の壯士で、たゞ生命を棄よう〳〵と許り思つて居ました。幕府で一人殺せば、十人は後嗣が出來ると云ふ積りで、たゝ殺されるのを希望すると云ふ風でした。夫で、海舟先生にお目にかゝつて時勢の事を慷慨した所ろが、先生の言はれるのは『天下はまだ泰平で、ワシの目から見れば閑暇無事だ』と言はれました。夫はあまりの放言だと思つて問ひますと、一々意見を話されて、今は迚もどう

しても行くものでないと云ふお話しでした。朝廷の方へは万里小路を通して一々奏上されて和でしたが、夫が死なれてからは最早人もなく、幕府の方では、少しも用いないから、『勝の目から見れば閑暇無事である。佐久間なども、いろ〳〵話して、決して出て來るなと止めてやつたのに、聞かんで出て來て、アンナ馬鹿な真似をして居るから、アレはどふせ殺されるのだ』と云ふ話しです。夫はあまり、ひどい、御親類の間ではあるしと申したら、『夫でも言ふて聞かんものは仕方が無い』と云ふとでした。そふして、私等には、ソンナ慷慨を止めて、今の中に學問をしろ〳〵と言われましたが、今まで生きる積りならば、真とに學問したら宜しかつたにと毎度申すのです（某男爵の話）

◎私は明治卅年の五月に初めて先生にお目にかゝりました。其時は、國元で小さい鉄道を發起しまして、其許可を受けに上つて來ましたのですが、先生が話の末、何を為に來たかと云ふお問ですから、其事を申しますと、『夫は止た方が善い、迚も出來はしないから』と云ふとです。其頃は、御承知の如く事業が熾んの時ですから、余程意外に思ひ升た。先生の言われるに、『今ま此の好景氣の時に目論んだ仕事は迚も長く續くもとでない、あとで大へんに困る斗りだから、是非よせと云ふとでしたが、私等の發起しましたのは、僅か五十万圓の資本で、其中三十万圓は確かなる發起人中で擔當して、直きにも金が集まるので、且つ土地の為に考へたもので、決して一般尋常の株屋の様なつもりで為るのではありませんからと、申しましたら、『夫れならばマア善いが』と云ふとでした。然し、如何なる先生も、マダ地方の事には暗いと思つて居ましたが、夫から直きに國に歸つて見ますと、僅かの間に形勢一變し、もし許可があつたら、どふしやうと云つて居る所ろでした。初めて先生の見識の非凡なるとに驚ろきましたのです（前代議士、某）。

西行法師、女の生血を吸ふ

啓、女の生血を吸ふと申すと物恐ろしく候得共、古來英雄豪傑には、父母兄弟姉妹妻子をも引き裂き食ふが如き、鬼畜の多きに驚き入り候。彼の西行の如き可憐の女子を蹴落し、不

便の妻に紅涙を絞らせ、西へ行く身となり候とても、何んのなんの佛様が御悦び遊さるべき、實の處は、西行が若氣の失策にして、四十以上なら、妻子の爲には、弓馬の弟子、兵法の塾など開き、賴朝公の御機嫌、梶原様の御屋敷へも罷出で和歌の點刪も、一首壹錢位に定め、今日を程々に送り、未來は安養極樂と、大決定も可致次第に候。此の男も、生血を吸ふ冷血動物となり候、後日に、後悔いたせし事と奉存候。隨園の詩に――再題馬嵬驛。

到底君王負舊盟　江山情重美人輕

と吟じ候。最愛の美人が殺さるゝならば、玄宗帝も尊を下りて心中しては如何に、國家も、社稷も、名利も棄てゝこそ、愛とは申され候、此の愛が、愛染明王の愛にて候。基督の愛にて候。此の間の消息は、君ならずして誰か知る可き、頓首。

山下大仙坐右　　　牛門大士

復啓

さすがに一頭地を拔いての御見解、沒戀非戀、大俗非俗の眞締を道破せられ候事、牛門大士得意の眼識に候。古より遁世の士、多くは若年に於てする故、若年の最大情慾戀思情愛の羈絆より脱せんとを旨といたし候か。此を旨とする丈け、其の束縛に苦しむ證誕に候。もし一段老成して、聖戀純愛の境に入りたる后ならば、ソザ〳〵かゝる殺生もいたすまじく、即わち宗教開祖の氣高き戀思自から發して、女弟子多く周圍を取まくの秘義に候。妻子を棄て、戀を棄て、身を枯木に、心を死灰にせでは得道しがたきもの、やうに言はまだ〳〵初學教に入るの門、寧ろ小乘の第一階と存じ候。御贊同の意を表したく早々不宣。

○女學雜誌を評す　（第五百四號）（山形新聞）

毎度ながら趣味の津々たるは流石に女學界の雜誌王たるに愧ぢず、本號には善治氏が海舟翁を思ふ一文及び其臨終に於ける實話と翁が善治氏に對する最後の談話とを載せたり、翁の逝後已に一周年、猶ほ其の謦咳に倚戀して追悼する善治氏の如き人あるを知らば、翁も亦地下に知己あるを微笑すべし、「一教師の述懷」「女學第一等の事如何」等極めて親切。異彩を放てるは青柳氏の奉堀越秀君書なり、吾人は氏が巧妙流暢なる筆致に驅られて恍然として讀過するも、更に細思一番すれば其の論の必ずしも團州一人に就て讚美せんが爲めに草せられたるに非るを知る。唯だこの藝園の親玉を借來りて世間に對する欝憤を洩せるものなる事は明なり、明治社會が藝術の神聖を認めざる事も論者の言の如し、世間團州の盛名を猜むで之を毀けんとする奴輩多きもまた我れ論者に同ぜん、唯た其の團州を以て英雄の資ありとなし、彼にして若し元祿の世に生れなば大石良雄たりしなるべく、源平時代にありしならば惡七兵衛景清となりしならん、さて海舟南洲皆な團州と同階なりといふに至つては實は抱腹に堪えざらんとす、而して氏はカーライルの言を引用して曰く英雄は本躰に於て同じきも時代境遇に依て變化するものなりと、然れども是れ聊か團州を論ずるに於て商量せざるべからず。兎に角面白き一文なり、其他例の隨感雜錄好文字鮮からず。女子に限らず有髯男子も亦た一讀の價値ある雜誌なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女子高等師範學校明治卅三年二月入學試驗問題

○國語試驗問題　（二時間）

（注意）文法ノ答ト解釋ノ答トハ別紙ニ記ムベシ

文法

第一　左の動詞の語尾の變化を示し且假名遣に誤謬あらばそを正せ

恨む　堪ゆ　報ふ　旅す

第二　「今日」といふ語を名詞にと副詞にと兩樣用ひ分けたる例を示せ

第三　左の文章に文法上の誤謬あらばそを正し且その理由を述べよ

某地に布設されたる電氣鐵道は最も新式に據れるなり

解釋

四條大納言(公任)月ごろ恨みありて出仕もしたまはず大納言辭退し申さむとせられけるに匡衡を招きて辭表を書かせむと思ひ同時の秀才碩名以言等に誂へしむといへども御心にかなはず貴殿ばかりぞ書きかなへられむと思ふといはれければ匡衡なまじひに受けとりて家に歸りて歎息の氣色あり時に妻赤染衛門何事ぞと尋ぬるにかゝる事なり彼の卿は才名高き人なり然るをそれに勝りて書きのべん事極めてなり難しと答へければ赤染うち笑ひて彼の人ゆゝしく驕傲ある人なり我が身の先祖やんごとなき者にてありながら沈淪の旨をかゝざるか早く此の旨をかくべしといふ匡衡其の辭の草を見るに實に其の趣なし尤も然るべしとて打立にいふは彼は五代の太政大臣の嫡男なり藏人忠仁公より以來といふより次第に數へあげて我が身の沈める由を書きて持ち行く所に感歎して悦べる氣色なりよつてこれを用ひけり

○國語試驗問題　（二時間）

作文

時計を見ておもへることを

○漢文試驗問題　（二時間）

毎字ノ傍ニ讀方ノ假名ヲ付ケ別紙ニ寫シテ之ヲ解釋スベシ

第一　鹿馬身羊尾高脚而行速牡者有角夏至則解大如小馬黄質白斑牡者無角。小而無斑毛。孕六月而生子。性能別香艸。食則相呼。行則同旅。居則環角外向以防害。

第二　評定長官　下讎京師　多多益辦　口無擇言　交情膠漆　欲得榮根百年可作

○歴史試驗問題　（三時間）

第一　明治維新の大業の成りし所以を説明せよ

第二　左記の人々の略傳を記せ

赤染衛門　春日局

第三　我が國と唐朝との關係を問ふ

第四　元朝の衰亡の速かなりしは何故か

第五　歐洲中世の十字軍に就きて知る所を述べよ

第六　現世紀に於ける「ドイツ」帝國勃興の次第を記すべし

○數學試驗問題　（三時間）

第一　乘法とは如何なるものなりや

第二　二數の最小公倍數を求むる方法並に其の理を記述せよ

第三　荷物運送に於ては一立方尺を一切と云ひ四十切を一噸と云ふ今一噸の運賃を二圓五十錢とすれば長サ五尺二寸闊サ三尺四寸厚サ一尺九寸の荷物の運賃幾何なるか

第四　次の式の値を計算せよ

$(\frac{1}{2}+\frac{2}{3}+\frac{3}{4}+\frac{4}{5})\div(\frac{1}{2}+\frac{1}{3}+\frac{1}{4}+\frac{1}{5})$

第五　百圓を額面五十圓の株券を九十圓の相場にて買ひ年八分の配當ある株券（一株五十圓）を六十三圓五十錢の相場にて買ひ入るるときは年收入の差如何

第六　地球の周圍は四万キロメートルなるが北半球の水陸の割合を三と二とにすれば同半球の水陸各々の面積如何なるか

第七　直角四邊形の對角線は其の中點に於て相交る此の證を問ふ

（注意）各問に就きては運算を詳記し第三第五及び第六に就きては解法、算式、運算、答を明記すべし

○理科試驗問題　（三時間）

（注意）物理ノ答ト化學ノ答ト博物ノ答トハ各别紙ニ認ムベシ

物理

第一　水と鹽水とは混合すれども水と油とは否らざるの理如何

第二　寫眞器（暗箱）中に生ずる像は倒さまなるの理如何

化學

第一　左に記する諸元素の酸化物を擧くべし

水素、　窒素、　炭素、　硫黄、　燐、

第二　燃燒と呼吸とを比較せよ

博物

第一　一輪の花は一本の枝の變体なりといふ何に依りて之を證するか

第二　双子葉莖と單子葉莖との構造上の區別を記せ

第三　節足動物の大部類を指名して之に各〻一二の實例と節足の數とを附記せよ

第四　人体の心臟を中心として血液の循環する順序を記せ

○圖畫試驗問題　（一時間）

毛筆畫

第一　墨畫の竹　壹葉

第二　墨畫の花卉　壹葉

右意隨に畫くべし

○習字試驗問題　（一時間）

第一　以文會友

右楷、行二體（一字方二寸位の大さ）に認むべし

第二　けふといへはもろこしまても行春をみやこにのみと思ひけるかな

右隨意に認むべし

○裁縫試驗問題　（三時間）

第一　常幅壹反（二丈八尺）の表地を以て男袷羽織を裁つに仕立上り寸法袖丈け一尺四寸五分身丈け二尺六寸にせば其裏地幾尺を要するか

右裁方の圖解に名稱寸法を記入し及びその積り方の算式を記せ

第二　與ふる所の布、糸にて女袷の上前を實物三分の一の寸法に縫ふべし

但しよきの寸法は實物のことくすべし

寄書

○鑛毒地方の吾同胞

田中正造

刑法に曰く

官吏瀆職罪之内

第二百七十六條　官吏人民に對する罪之内官吏擅に威權を用ひ人をして權利なきことを行はしめ又は爲すべき權利を妨害したる者は十一日以上二月以下の輕禁錮に處し貳圓以上貳拾圓以下の罰金を附加す

靜謐を害する罪之內

第百六十二條　道路橋梁河溝港埠を損害して往來を妨害したる者は二月以上二年以下の重禁錮に處し二圓以上二十圓以下の罰金を附加す

右之通り官吏と雖通路を妨けたるものは罪あり。官吏と雖、無理に示談金をすゝめ無法證文に調印を取りて權利なきことを行はしめたるものは、罪あり。官吏と雖、人民の爲すべき權利即ち請願の權利を妨害したるものは、罪あり。抑々我の請願は法律上の權利な、、道理上の權利なり、我々の請願は毫も天地の間に恥つるなくして、又怖る處なく、憚る處なし、更に第二の請願準備を爲すべきのみ。若し第二の請願を妨害するものあらば、更に第三の請願準備を爲すべし。第三、第四、第五、相次き被害地人民のあらん限りの請願を爲して、止まざるべし。我々は固より罪なく、我々は國家のために請願するものなり。若し夫れ請願を止め我々退ひて座して空しく毒に殺されんか、之れ國家に不忠、祖先に不孝の汚名を蒙るものなり。故に寧ろ進んで請願を爲して、早く其目的を貫くにしかず。依つて急き第二の請願準備を爲すべきなり。又青年は擊歌を怠るべからず、日夜其稽古を怠るべからず。村々老幼婦女たりとも、毒死者のためには其供養を怠るべからず。又毒死者のために其仇を忘るべからず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

樂界微笑錄

○劇場の音樂

廣本露草

上古より近代に亘りて世界に行はれたる演劇は其の種類いさゝか多けれども其内最も勢力あるものは希臘の劇所謂クラシックドラマ、歐洲の傳奇劇(ゴシック、ドラマ)樂劇(オペラ)の三種に過ぎず、然して、我邦の演劇は其の歴史的關係よりして、科白と音樂とを混用し近來寫實の風漸く加はるに及び、昔しは唄ひし句を、今は誦辭に物し、其れも一種の律呂あれども、世話物の或場合には稍々砕けていふなど、次第に音樂的分子を減ずる傾きあり、今之れより少しく劇樂の種類と應用の範圍とを撿せんに、別して器聲と肉聲と相伴ふもの及び器聲のみにして肉聲の伴はざるものとあり、盖し換言すれば肉聲は歌詞に當たるをもつて、前の兩者は更に歌詞あるもの及び歌詞なきものゝ二に分つを得べし、然らば今所謂劇の囃子と語り物とを比せんに、

劇場の樂
- 歌詞あるもの……
  - 語るもの(浄瑠璃)
  - 唄ふもの(唄)
- 歌詞なきもの……囃子

然らば語るものとは所謂る役者所作事に於ける感情發想の長唄之れなり、然らば又唄ふものとは一場の幕明き、人物の出入、又は特別の動作などに用ひらるゝ普通の唄、若しくは俗吟の類なり、次に囃子に至つては、何れも戯劇の或部分にのみ用ひらるゝものにして是れには音樂的即ち樂器によるものと、實質的即ち樂器によらざるものとあり、樂器によらざるものとは、例へば雨車、赤子笛の如き、又樂器によるものは即ち風の音(大鼓)コダマ(小鼓)などの類なり、其他また種々あれども此は且て音樂雜誌第四百九十二號(七月廿五日發兌)寄書欄に於て日本演劇に於ける伴樂器の性質と題して明記せし故此には之を略す、されば既に音樂として見るべき囃子は尠く多くは單純なる旋律を以て俳優の技藝即ち科白を助け、且つ場面の景情を補ふぐらいのものなり、且て數年前歌舞伎座の道成寺に於て西洋樂の伴樂を加味調合して劇を成せし事あり、當時某人「歌舞伎新報」に書を寄せて曰く、長唄の明瞭に讀取れざりしは今更西洋樂を加へたるに非ず、元來日本の歌曲は發聲法の不良なる爲め音の分節充分ならず、また長唄に於ける囃子の器音及び懸け聲が餘りに繁に過ぎて歌聲を壓滅し、三味線の撥音も其の主音則ちつぼに依て發する音を打消すことあり、加之鼓聲及び笛聲の一部は多く噪音にして之が爲めに三絃及び人喉より發する樂音を壓滅し尚又た囃子は鼓聲噪音なるが上に間拍子亦三絃と同一ならず、歌聲の律によつて旋行する間に鼓打の掛聲は律と關係なく、剰へ噪音に近きものあり、篠笛は旋律的なれども、倚音連結多く、其の間拍子は不可測的なり、能管に至ては其の旋行、間拍子と共に合奏樂器たるの資格を有せず、殊に其の高音部の強聲は殆ど樂音の區域外なり、三絃の撥音また噪音に偏すと。是れ以て囃子の不調和なるを知るに足る 故に今日我邦に於て專ら使用する劇場の伴樂器は稍々囃子の點に於て劇の所作と其間整はず頗る間のぬけたものにて應々噪音の和聲を以て得意に伴樂 囃子となし轉た歌者の旋律旋行と合せず實に西洋樂的の分析力を以てそら拍子だ、そら調子だ、そら和聲だと、故さら六つかしく細かに聽き別けて劇の動作と比較調和を見る時は決して喋々之を論辯論議するの價値なきものと信ず、然し趣味は東西異疑するものなれ從らに欧樂趣味の眼を以て邦樂劇の如何を論駁することも能はず、故に余輩は茲に却て日本劇通の專門批判家に之れが判定を讓りて余は只だ西洋樂に依り日本劇場音樂の不調和不整樂なるを說きしのみ、乞ふ讀者之を諒せよ。

○國樂制定の標準樂

我が現時の美術界は何れの方面に於いても一大才に渇せるは事實なり、繪畫彫刻、建築、何れも皆混沌たる渦中にありて、しかも其内音樂界の如きに至りては頗る甚だしきもの、雅樂は如何、俗樂は如何、一つも是とすべき正案なく是を稱して又堂々和洋の樂を調和して奇妙なる不調和樂を作るを得ず、實に國樂制定の事業は困難思ひやらるゝ次第、彼等樂人は勉めて此等の問題に關心し居れども、向に今日世人の一般に是等音樂を視るは只だ冷々、彼等の多くは其の好尚寧ろ其の必要なきを認めざるもの比々、音樂界の他の美術に比して割合に不進歩なるはあやしむに足らんや、故に今吾人は少しく之れより日本樂の如何を陳べて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

國樂制定を評さんに、先づ雅樂に就きて見るも、其の今人の好尙に適せざるは云ふ迄もなし、高尙優美なるにあらず寧ろ今人の好嗜には單純過ぎる方なり、今人のテーストは雅樂よりも進めり、されば運慶、鳥佛師などの作を古美術時代品さして保存するが如く、是れ又一種の古樂さして保存せんこそよけれ、そは天平年間より今日に至る迄、よし多少の改變ありしにもせよ、尙依然さして其舊形を傳ふればなり、是れ雅樂の發達なきを證するさ共に國樂さして誇るべからざるものなり、次に俗樂に至りて論ぜんに此は元來讀んで字の如く俗々たる流行歌の集まりて出來しものにて聖樂さして採用するは寧ろ苦るしき方なり、固より或點に於て雅樂より進步せし所もあれご、今後音樂の學理發達し且一般のテースト少しく進步せんか到底行はるべきものにあらず、俗樂は從來無教育者の手に一任せられしが故に在來の樂譜をのみ襲用し、絕えて新曲を制定するものなく只だ古調の同調に從て一二の變異新拍子を加ふるに過ぎずして到底之を改良するさか洋樂調を加味するさか云ふ新說紛論百出なれご此は實際行はるべきものにあらず、要するに俗樂は雅樂さ共に保存主義の時代美術さすべき方適當なるべし　玆に於てか然らば吾人は其れが模範を歐洲樂にさりて新たに日本的歐洲加味樂を作曲するの說を主張せん、文明の人種は複雜を好み野蠻の人種は單調を好むさ、誠に然り、一國の國歌(ナショナルヒムス)撰成の曲趣を見ても畧ぼ其の國の地質人情を知得するが如く、曰く獨逸の如き壯大なる氣質に富める國の樂は總て壯大、又佛蘭西の如き有美然たる國情は國歌自ら有美に作曲せられ、露西亞の如き壯嚴猛大なる國風は是れ又自ら國歌に壯嚴猛大を表し又日本の如く頗る單調子たる島國人種の國歌には『君が代』の如き單純なる歌あるが如く之れ總て單調子樂を好む國は自ら蠻を表し復調子樂を好む國は又自ら文を表せりさ、故に我邦も今日は文明に進步向走するの川流時代なるが故矢張り復雜樂を以て國樂さする方最も當を得たりさ云ふ可し、故に余は公平なる態度を以て論ぜんに音樂さして日本樂は西洋樂さ如何にしてもくらべものにならず、

西洋樂の學理技術さも著しく發達せる、又今尙駸々さして發達しつゝある、遠く日本樂の及ぶ所にあらず、日本樂が全く和聲（ハルモニー）を闕如せる事を見ても音樂さして其の幼稚なるは知るべし、彼の三絃にて本調子さ二上りさを相合せ、又ツレビキにて不知〳〵和聲を奏する等のこさあれご而も唯二音階に止まれり、又十二律の配當表を示して各國律名の差異を記さんに、俗樂用律にては一本より十二本迄、本邦大律用にては林鐘、夷則、南呂、無射、應鐘、黃鐘、大呂、大簇、夾鐘、姑洗、仲呂、蕤賓迄、雅樂用律にては鸞鏡、盤涉、神仙、上無、壹越、斷金、平調、勝絕、下無、双調、鳧鐘迄、淸樂律用にては、合六、乙、上、勾、尺、工、凡迄、以上は俗樂雅樂の律異にして所詮吾人は國樂制定の標準には歐樂を以てする方公平なる說議も信ず、

通信

女社會學答信（其二）

出羽莊內

（十）女學生の風紀

女學生さ稱するもたゞ新設の一女學校あるのみ故に鳥なき里の蝙蝠に等しき擧動なきにあらず而して女學校に入學するものは富家の女子なるが故に華美を競ふの傾向あり然れさも皆父母の膝下にある學生なれば格別風紀を紊る如きこさなし

（十一）結婚離婚の方法及び再婚に對する世間の思惑

男子廿才女子十七八才に達すれば父母の爲めに良緣を求む媒介人ありて婚禮を擧ぐる迄の周旋をなす結婚式の如きは簡畧を主さするに至れり今其大畧を記せしか媒介人示談整へば「手結ひ」さ稱して酒を贈り次に吉日を撰んで結納を贈る結納には酒肴及び衣服又は反物を用て或は金子を以て之に替ふるもあり而して後日を定めて家に迎ふ婚禮を行ふ日迎へ樽さ稱して酒肴を贈り夕刻花嫁父母に伴はれ媒介人に導かれて婚家に來り直ちに式を行ふ式に列るものは双方の父母及び婚家の親族なり次日親族及び近隣の主婦を招待す之を御茶振舞さ稱ふ、三日目新婦の實家にて新夫及其父母近親を招待す之を三つ目さ云ふ玆に於て婚禮は完決するなり富豪家にありては腰元の如き付添人ありて數日婚家に居て花嫁を補助するものあり、舊藩時代にありては婚禮を行ふ家あれは近隣の壯丁群をなし祝ひさ號して礫を投じ若くは土足を以て家に入り又は花嫁を道に要する如き惡習ありしも近來大に改まり少年等戲れに石を投し或は繩を張るあるのみ

離婚及び再婚は其理由によりて或は同情を得或は賤まる

（十二）女子の風俗

當時最も廣く且つ多く流行する髷は銀杏返しなり士族も平民も少女も壯年も之を結び學生も工女も之を採らざるはなし要さなれば士族は丸髷（母衣髷さ云ふもの多し）平民は島田にして五十才以上に至てはかたはし、なばこ、つぶから等を結び中には小さき島田を結ふもあり衣服常服は手織木綿にして晴着には絹織交せ織の類多く共に從來流行す絹布を纏ふものは極めて少數なり帶は友禪ごろ最も多く繻子之に次く常には手織木綿なり十六七才より卅才前後までは帶揚を用ひて太鼓結びさなす士族の主婦等は下げ帶に結び老婦又は町人にあ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

りては卒都をなすもの多し涅齒剃眉の風は大に衰へしと雖とも町人は妻となれば今猶ほ齒を染む婦人の飲酒は世間の嫌ひ處なるも喫烟は然らず

(十三)殊に目立たる女の服裝は持物手回道具

ふられる又は木綿を以て肩掛の如くし之を襟巻と云ふ蓋し襟の汚染を防ぐにあり而して之を用ふるものは多く平民の婦女なり

(十四)宗教上に於ける婦女子の信仰事業勢力

最も信心の堅く強きものは眞宗に屬する老婦なり當地の眞宗は大谷派にして七ヶ寺より其説教ある毎に參詣人充滿す而して其の三分の二は老婦なり眞宗以外の婦女に至ては宗教を度外に措き而して稲荷若くは巫女を信ずるもの甚だし其耶蘇教を信ずるものは新舊教派合して三十名に過ぎず孰れも事業又は勢力の見るべきものなし

(十五)尼巫女妾となる婦人

市中の婦女にして新たに尼となり巫女となるものあるを聞かず妾となるものは一たび藝娼妓たりしもののみなり妾は美麗なる衣服を纏ひ居れども一般に下品にして人に嫌まる

(十六)女子の言葉に關する特別の氣付き

他國人の庄内に來て最も困難を感ずるものは女の言葉なりと云ふ之れ女は交際の狹きと固有の方言多きによるなるべし今其特に可笑するものを擧ぐればアラヤ〳〵(感歎詞)キンモケダ、キモツプレダ、ホントエ(ホントカエ)デッテエ(个條)ダッテエ(イヤダ)ナンボノー(幾の意)の類にして皆な女方言にして最も多く用ひらるゝ所なり此他可笑のもの擧げて數ふべからず

(十七)女先生女先覺又は有力家にして其地方の婦女子を感化するもの無きにあらざるべしと雖とも余未だ之を聞かず

(十八)婦人に關する有名の古蹟古碑並其小史なし

(十九)婦女子他國に出稼の有無

賤業を以て出稼するものあれども正業の出る者はなし

(二十)密賣淫及び娼妓の稱呼並に之に對する慣習の有無

密賣者をメンタンと云ひ娼妓を尾澄娼妓をオバコ又はアネマと云ふメンタンの名其起原明かならず尾澄と稱く由昔し尾浦(今の大山)城主武藤氏亡ぶるの御殿女中零落して湯田川に往き遊客の娛樂を助けしも其尾浦の女といふを尾澄と稱せしより遂に娼妓の稱呼となりしと云ふ眞か否かアネマとは當地方村にて若き女を總べてアネと呼ふ而してマは猶ほ殿と云ふに等し之等の意にて其稱呼起りしものならん密賣者は甚だ擯斥せらるゝも娼妓は左程ならず小學校の近邊に檢梅所を設けて官之を顧みず教育家之を意とせざるを以て見れば其價値の甚だ少きを知るべし

○明治女學校通信

校友某記

編者云く、吾讀者の某氏書を寄せて申さく、貴社に關係厚かるべき明治女學校を初めとし瀧の川學園、大坂博愛社、岡山孤兒院等の記事近年殆んど稀なるは何故ぞ、之を他より傳聞するのみにては甚はだ物足らず思はるゝに付、今後折々其正確なる報道を掲載さるゝ様ありては如何にと。吾人は其眞實なる勸告に動かされ、自今吾社と關係ある諸器關の景況は、時々夫々の人に請ひて其の記事を掲ぐることとすべし。則ち最初に明治女學校通信を左に掲載せしむ。

去る廿九年類燒後、明治女學校は北豐島郡巢鴨村に轉じ、中仙道の中坂橋街道の庚申塚と呼ばれたる邊りに校地六千坪を得、樹林あり、竹林あり、畑あり、茶畠あり、尤とも草の茂ること多き中に校舍を設えて、曩昔麴町區内紅塵十丈の内に在りし頃とは隔世の別感を得たり。之として書生を募らず、只だ篤志の人の來學に任せ、就中通學生の通學あるべしとは思はれざりしに、寄宿舍は大抵滿員にて、通學生亦少なからず、甚だしきは澁谷、龜井戶などより汽車に便乘して通へるものありけり。教育の大體は十六年間固より進化あられど、此の村舍に入りてより、殊に學生の自修獨學を多くし、諸教員は亦た學校の周圍に家居して朝夕臨校せらるゝため、書生は其自修研究する所を學科時間外に質問し、推攻練磨の便甚はだ多くなれり。課程は、高等小學卒業後在學三年を普通科とし、其後二年を高等科とす。高等小學未卒業者に對して別科及び準備科を置く。世の高等女學校卒業生は、普通科最終の學年に入り、更に一年在學して後ち高等科に昇るの定めなれども、校内總べて語學を用ひ、定期の試驗なく、畫一の規律なく、悉とく個人興樂の自由を信す。高等科生は、研究會を設け、教員諸氏と連席して月一次研究會を開く、最近の研究題目は、日蓮と親鸞、モーセ、國姓爺、日本料理學等なり。又在校生一同月一次の文學會を開き、校内に「窓の梅」と題する雜誌を編輯す。卒業生は別に卒業生會報告を印刷し、年一回其會員と知友とに配布す。學科として少しく普通女學校に異なるものは、政治、社會、經濟、哲學、國際公法、審美、憲法等の諸科ありて諸授・・・にて、布川靜淵氏主として擔任す。一週一回道話あり、巖本校長擔任し、亦「老子」を論ぜらる。一週一回の談話會には、各教員

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

もしくは校友交る〳〵學藝日進の講話を爲す。武道々場は故勝伯の寄附に成り、竹刀、の擊盛んなり。薙刀、柔道も亦盛んならんとし、テニス、クロツケの遊びも近日準備了すべし。若夫れ、樹林の奥に一草庵あり、樹下尤とも幽靜、朝々夕々三々五々逍遙遊して吟歌、獨唱、默想等に耽るの樂しみは、都門に於て得がたき所ろとす。然るに、此の僻村を目的としてワザ〳〵移轉したるにも係らず、近來新に學校を設けんとするもの次第に此方面に着目し、學習院の目白に來るは暫らく云はず、大谷派眞宗中學校は明治女學校の裏二三丁の所に來り、東京府第二中學校も、數丁を隔てし瀧ノ川の近傍に來らんとすと云ふ。

時事

○造士新聞憤死す

大阪の文壇に一種の熱血を灑きつつありし紀志嘉實氏の造士新聞は、其第四十二號を限りとして打死せり。われ其の終焉の記を讀むに、涙潸として志士限りなきの痛恨に泣く。左れど、藝軒もしくは不孤たるもの、此の一敗によりて屈すべきものにあらじ。これは此の廢亡が他日の大動力たらんとを信す。

○新聞帋の活氣

新聞帋は、不偏不黨にあらざれば活氣なし。打破改革の氣慨あらざれば活氣なし。東都の文壇久しく其氣沈消せしに、今や毎日新聞は、其眠より覺め、萬朝報は、其悪品格より進み、優に帝都の活文壇となりて、大いに烈士の心懷を壯んにす。

○小說界寂寥

財政困難の時代に豐艷なる文學あるとなし、文學豐艷ならずして、安くんぞ小說界のにぎやかを望まんや、其の寂寥は當然なり。然し乍ら、斯の如き折にこそ、沈痛にして、悲慘、慷慨にして激越せる一種の小說は勃興すべきものを、世未だ其人あらざる乎、もしくは其人未だ起たざる乎。

○赤十字業に於ける日本婦人

赤十字の事業などは、婦人こそ主として盡力すべきに、我國に於ては、其機運尚隆ならず。現在の程度は、左の統計の如きに過ぎず、

日本赤十字社と婦人の關係一覽 明治三十二年十二月末日調

婦人社員	特志に因り有功章を授與せられたる者	七
	功勞に因り特別社員に推薦せられたる者	一〇一
	特志に因り特別社員に推薦せられたる者	三一
	醵金を出して正社員若くは賛助社員たる者	一四、三四四
	合計	一四、四八三
篤志看護婦人會事業	會の數	一八
	會員の數	一、四〇八
	會の資金 收入	一、七六九・九九〇円
	會の資金 支出	八五四・八八六
	會の資金 現在	九一五・一〇四
	天災事變に付寄贈品	二・五〇〇
二十七八年戰役の事業	陸軍病院に勤務せし者	二七二
	軍人患者慰問品購入額	四六二・五〇〇円
	陸海軍に寄贈せし繃帶材料	一二、九八五
	陸軍の囑を受けて作りたる繃帶材料	二五、五五九個 五三、〇七一瓦
	日本赤十字社に寄贈せし繃帶材料	患者六百人に對し三十日分 五、四二四
	日本赤十字社に寄贈せし金錢	一九〇・三三三円
	臺灣出征軍隊に寄贈品	一〇、〇〇〇

病院に對し婦人の重なる寄贈

日本赤十字社病院開始に際し	寄贈者	六六

て寄贈せし金錢及物品	金錢	三五●〇〇円
	物品	五四六
慈善演奏會等を催うし救恤患者救助費へ寄贈したる金額		九、〇八六●七〇七円
合計	金錢	九、四三六●七〇七
	物品	五四六

看護婦の事業

看護婦の現數	一、五四

天災事變の事業	看護婦	患者
地震	四七	五、六七六名
風水	[illegible]	[illegible]
海難	一四二	五、九[illegible]
海嘯	[illegible]	[illegible]
火災	[illegible]	六八七
伐役	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]

二十七八年戰役の事業	
陸軍病院に勤務せし者	六七二
本國軍人患者を取扱ひたる數	九、四三八
敵國軍人患者を取扱ひたる者	五四
前三項患者合計	一、七八[illegible]
職務のために死亡したる者	四
職務のために罹疾となりたる者	一一
功勞に因り叙勲せられたる者	一[illegible]

◎宗教の研究

宗教を研究せんとする潮流、一流の社會に行われ來れり。人心、不動の根柢を要めんとするに至りし兆なり。元良勇三郎若其他大學有志の諸君が、其知人同窓もしくは諸學校生徒に書を送りて質問せられし宗教問題は、左の如し、

宗教心に關する質問の條項

（一）經歷

（イ）家庭に於て宗教心を煥起すべき感化又は刺戟を受けたることありや

（ロ）學校に於ては如何

（ハ）讀書上に於ては如何

（ニ）親戚朋友又は其他の交際上に於ては如何

（ホ）土地の風俗上に於ては如何

（ヘ）家庭に於て宗教を厭忌せしむるが如き感化を受け又はかゝる出來事に遭遇せしことありや

（ト）學校に於ては如何

（チ）讀書上に於ては如何

（リ）親戚朋友又は其他の交際上に於ては如何

（ヌ）土地の風俗上に於ては如何

（二）現在の狀態

（イ）ある宗教を信ずるや否や若し信じ居らば何宗教なりや及び之を信ずる理由如何

（ロ）宗教を求むる心ありや否や若しありとすれば之を妨ぐるものありや

〔例へば科學的知識より來る疑惑心又は父母親戚朋友との交際上より來る妨碍の如し〕

（ハ）今は宗教心を有せざるも嘗て宗教心を發したることありや若しあらば之を失ふに至りし理由如何

（ニ）若し宗教心を有せずば何によりて身を治むるか

（ホ）宗教に對し厭忌の感情ありや否や若しこれあらば其理由如何

（ヘ）自身に宗教を信せざるも之を必要なるものとするか若し必用なりとせば其理由如何

備考

宗教上の問題以外に宗教上の意見あるか若しあらば如何

◎二大偉觀

僅かに東京市民に等しき丈の國民が、隠然として世界一等國の大英帝國に拮抗し、荀くも屈せざる。海外万里、三十万の兵を動かして毫かも疑わず、列國の嫉視を蹂躙して傲然として所望を貫ぬかんとす。トランスバールも、大英國も同じに十九世紀最後の偉觀なり。

◉**隨言一則**　本號故あり、女報、女文一覽を除き次號に合收す。

（）本書儀出版以來非常の好評を得て忽ち三版も賣切れさ相成今回訂正第四版を發行致し特別に女服改良袋袴足袋股引腹掛脚作等裁縫方詳細圖解一覽表を添ゆ　正價金五拾錢

天下無二

内務省版權登錄證第一七五號

東京有名裁縫師野口金三郎著

和服裁縫口傳書 全

特別大割引金四拾錢 郵稅四錢

●爲替は取手郵券代用ニ割增し

本書は袷羽織袴布東コート振袖留袖三枚合はよく其外何品に限らず何も和服の裁縫に係る事は一切洩さず将り方縫方等數百種を如何なる初心の人にも極めて解し易き様圖解を入れ恰も手を取て教ゆる同様に記載あり裁縫業には尤も大利益あり又御婦人方には大便利なる良書なり

附錄 流行大居衣御祭り袢新形古形女合羽子供合羽等裁方縫方詳細の圖解一覽表

洋服の縫法 フロックコート、ヅボン、シャッチョッキ、裁方詳細圖解書

●發行所

茨城縣北相馬郡取手町

●和服裁縫術速成教授專門 野口裁縫教授所

青柳有美作

戀愛文學

四月下旬發賣

（附錄）美術論數篇　裸躰畫其他美的寫眞版入

●戀愛と婦人の眞相を知らんとする人は讀め

●男に詐されたりと思ふ女は讀め

●女に欺かれたりと思ふ男は讀め

●戀に惱めるものも又讀め

●此書は魔書なり不健全なり不道德なり

●此書は世を騒がさんとする青柳有美の處女作なり

發行所 春陽堂

社長 松島剛

英語通信講學

明治四十年四月開講●初等一ヶ月廿五錢●中等全一十錢●高等全冊五錢●入社金五拾錢

本社ハ今回事業ヲ擴張シ雜誌ノ外各專門大家ノ手ニ成レル國語、漢文、地理、歷史、博物、經濟、數學、工業、農事等ノ完備ナル講義録ヲ漸次發行ス（四月ヨリ先ヅ英語ノ講義ヨリ開講ス）本社ノ講義録ハ各科ヲ併駁ニ陳列セズ、ことん、もうろん等欧米最近ノ教授法ニ據リ初歩ヨリ順次正則ニ教授シ各等講義録ヲ別冊トシ隨意ノ等級ニ入リ自宅獨修セシム講師顧問學科等詳細ノ規則書ハ二錢郵券ニテ送ル

東京青山南町三丁目五十二番地

學窓餘談社通信講學部

故若松賤子女史譯述

再版

小公子

全一冊洋裝美本 紙數三百五十頁 正價金三十五錢 郵稅八錢

近代欧米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝこと數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本當代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化す、德に隣あり、母に作人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣く甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐純潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものさし、激賞措かず、嘗て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を措る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝこと切なり。即ち曩に其遺稿を收め、女史が一周忌に合せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、郷友松井昇氏は挿畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

大賣捌 東京巣鴨村庚申塚 女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY